

# 出水市人口ビジョン 2020

令和2年3月

出水市

## <目次>

1	人口ビジョンとは？	1
2	出水市人口ビジョンの対象期間	1
3	人口の現状分析	2
	(1) 総人口の推移と将来推計	2
	(2) 年齢3区分別人口の推移	4
	(3) 人口動態の特性	6
	(4) 住民基本台帳による近年の社会移動の特性	12
	(5) 配偶関係による特性	18
	(6) 就業状況の特性	19
4	将来人口の推計と分析	24
	(1) 人口推移と長期的な見通し	27
	(2) 人口構成の推移と長期的な見通し	28
5	人口の将来展望	30
	(1) 目指すべき将来の方向	30
	(2) 人口の将来展望	34
	参考資料：小学校区別人口推計	35
	(1) 平成27(2015)年の人口を基準(100%)とした総人口の推移	36
	(2) 年齢3区分別人口構成割合の推移	36
	(3) 小学校区別人口推計結果	38

## 1 人口ビジョンとは？

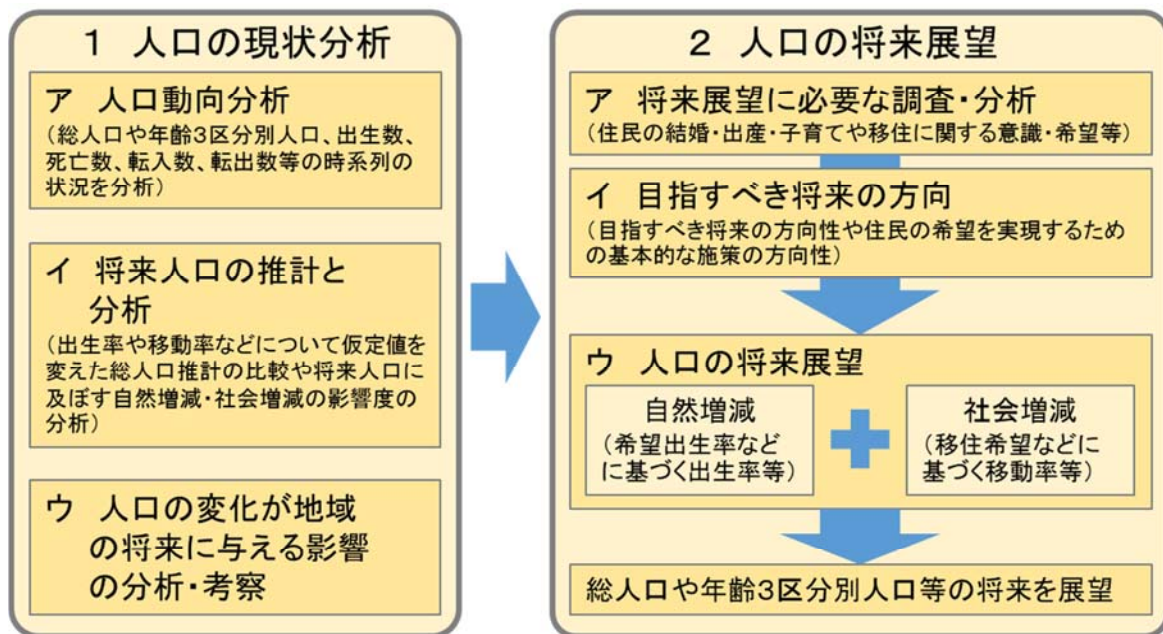
人口ビジョンは、本市における人口の現状と将来の展望を提示するものです。

人口は、効果的な施策を企画立案する上で重要であると位置付けられています。

これまでの人口推移や今後の推計等から、人口減少に歯止めをかける取組や人口減少に対応するための取組の必要性、結婚・出産・子育てに関する市民の希望を実現することの重要性など、本市が持続的に発展するために必要な施策の方向性が見えてきます。

また、今回の人口ビジョンでは、市民の皆様が住む地域（小学校区）の人口推計も行いました。今後さらに進展することが予想される「人口減少」や「少子高齢化」の課題を身近に感じていただくことで、**今からできること・今からしなければいけないこと**を市民の皆様と一緒に考え実行するきっかけになればと思います。

### <人口ビジョンの全体構成>



## 2 出水市人口ビジョンの対象期間

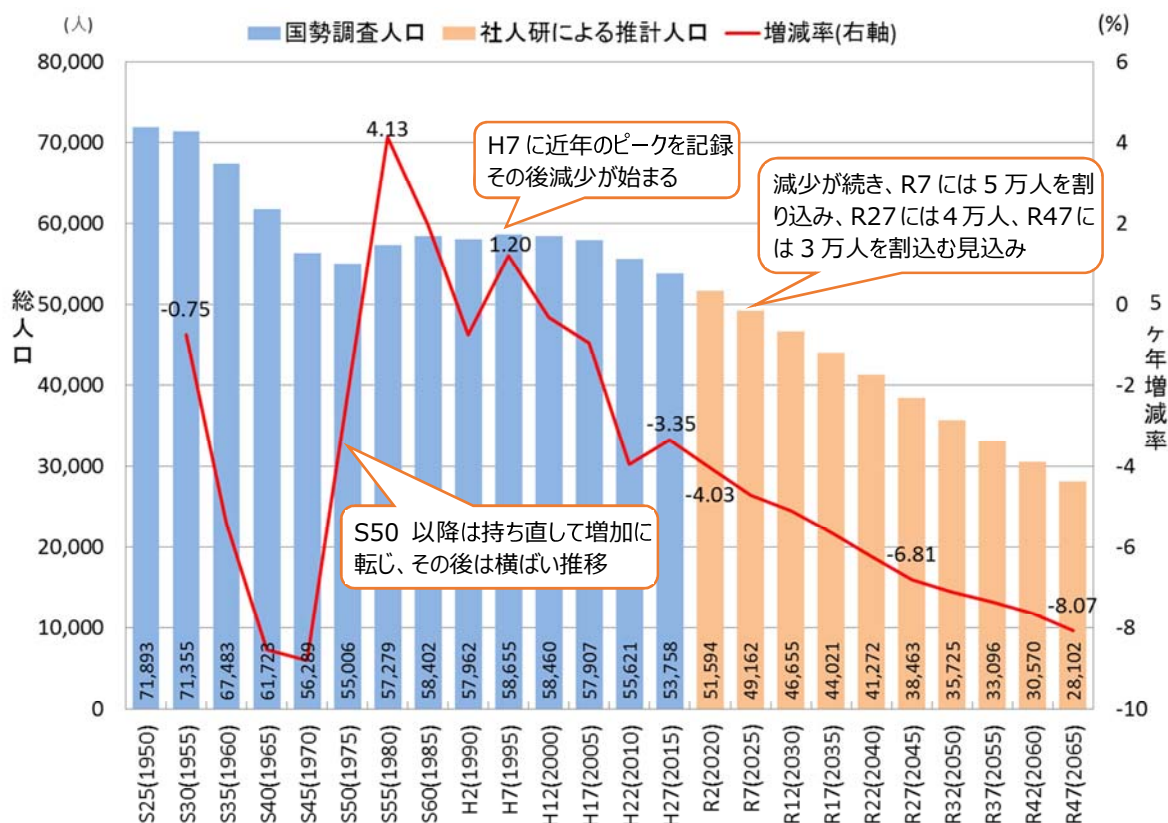
令和 47（2065）年までを対象期間とします。

### 3 人口の現状分析

#### (1) 総人口の推移と将来推計

##### ① 市全体の将来推計

図表 3-1 人口の長期推移と将来推計



※出所：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所※推計値

※国立社会保障・人口問題研究所は以下「社人研」

本市は、昭和 25(1950)年に最大人口（71,893 人）を記録しましたが、高度成長期に合わせるように、集団就職などによる若者を中心とした人口の転出が続き、昭和 50(1975)年には 55,006 人に減少しました。

昭和 50(1975)年以降は緩やかな増加に転じ、平成 7(1995)年には 58,655 人まで回復しましたが、その後再び減少が始まり、平成 27(2015)年には 53,758 人と昭和 50(1975)年の水準を下回っています。

将来推計は、5 年後（令和 7(2025)年）に 49,162 人、25 年後（令和 27(2045)年）には 38,463 人を見込み、平成 27(2015)年から約 28%減少すると見込まれています。さらに 45 年後（令和 47(2065)年）には 28,102 人になると推計しています。

人口は平成 7 年以降減少、令和 47 年に 3 万人を割り込む見込み。

② 小学校区別の将来推計

図表 3-2 平成 27(2015)年の人口分布



図表 3-3 令和 47(2065)年の人口分布(推計)

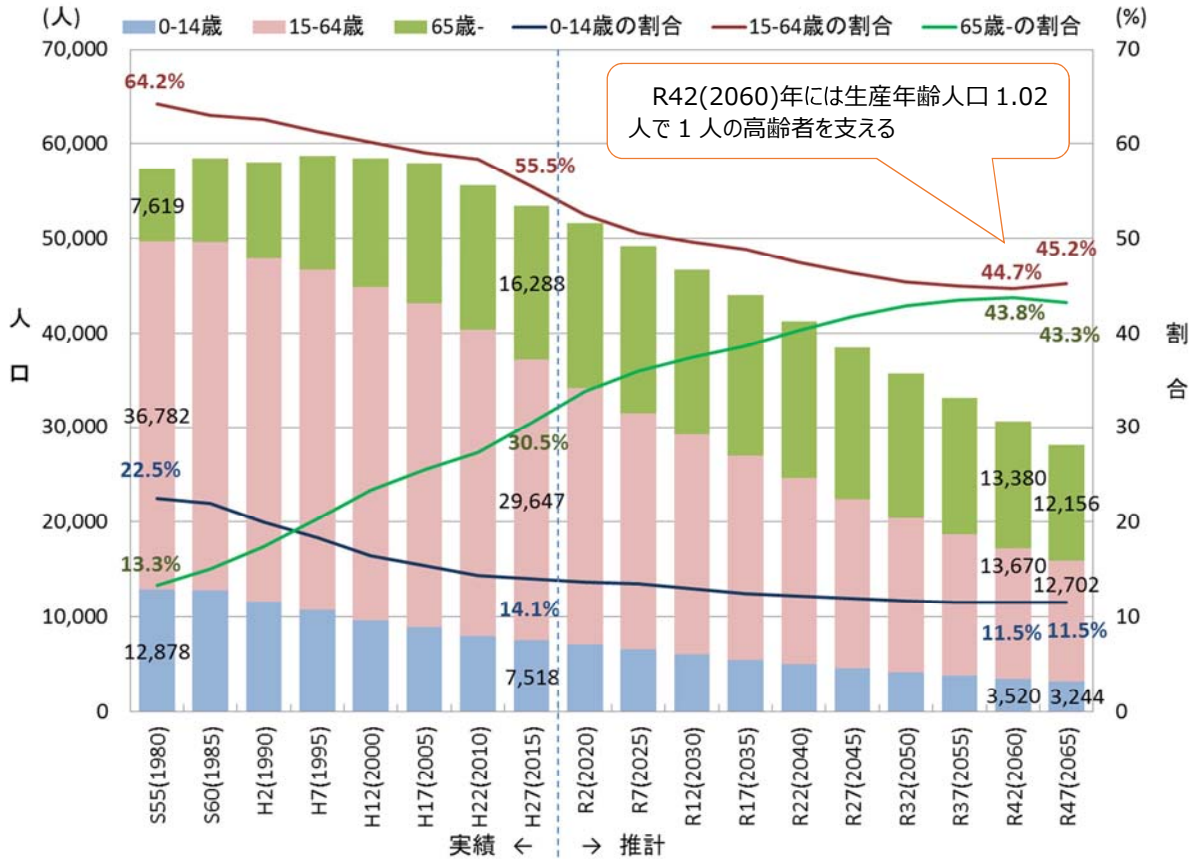


平成 27(2015)年の住民基本台帳人口をもとに、社人研が算定した率等を用いて、小学校区ごとの令和 47(2065)年までの人口推計を行いました。人口の分布状況は校区で偏りがありますが、全ての校区で人口が減少します（詳細は参考資料 P.35 を参照）。

全校区で人口は減少し、人口分布状況は校区により偏りが生じる見込み。

(2) 年齢 3 区分別人口の推移

図表 3-4 年齢 3 区分別人口の長期推移と将来推計



※実績は年齢不詳を除く  
 ※出所：国勢調査、社人研推計値

【0～14 歳人口】

- ・ 昭和 55(1980)年は 12,878 人、総人口に占める割合は 22.5%でしたが、平成 27(2015)年には 7,518 人、14.1%に減少し、令和 47(2065)年には 3,244 人、11.5%となる見込みです。

【15～64 歳人口】

- ・ 昭和 55(1980)年は 36,782 人、構成割合は 64.2%でしたが、平成 27(2015)年には 29,647 人、55.5%に減少し、令和 47(2065)年には 12,702 人、45.2%となる見込みです。

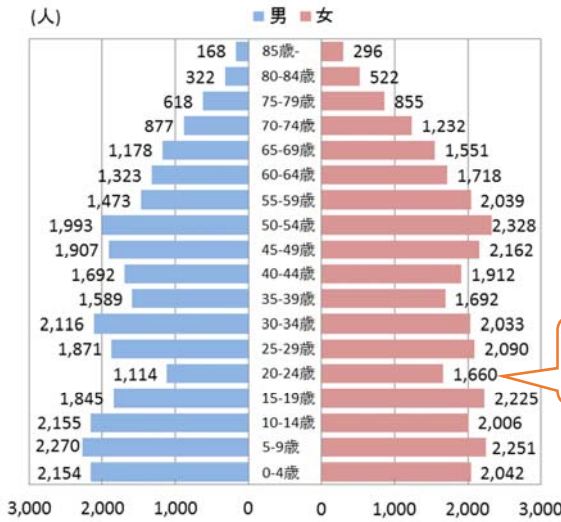
【65 歳以上人口】

- ・ 昭和 55(1980)年は 7,619 人で構成割合は 13.3%でしたが、平成 27(2015)年には 16,288 人、30.5%に増加しました。今後、令和 7 (2025) 年まで増加し、その後減少すると見込まれますが、高齢化率は令和 42(2060)年まで増加する見込みです。

年少人口・生産年齢人口は一貫して減少し、その傾向は今後も続く見込み。高齢化率は令和 42(2060)年まで増加する見込み。

図表 3-5 人口ピラミッド(S55(1980))

※出所：国勢調査、社人研推計値、生命表

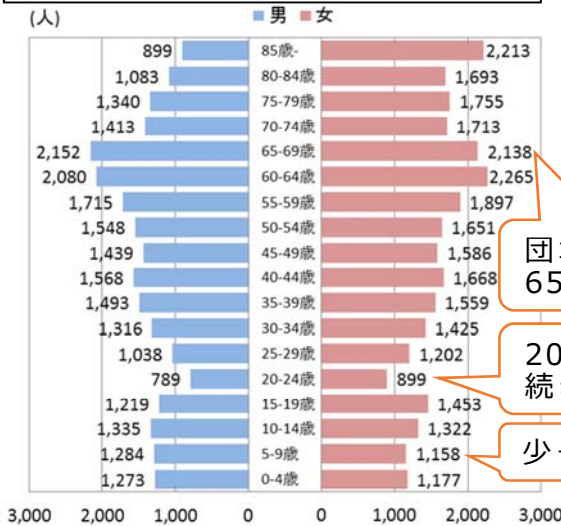


昭和 55 年は「ひょうたん型」

【65歳の平均余命（全国）】  
男性：14.56歳  
女性：17.68歳

20～24歳は、転出によるくびれ

図表 3-6 人口ピラミッド(H27(2015))



平成 27 年は「円筒型」

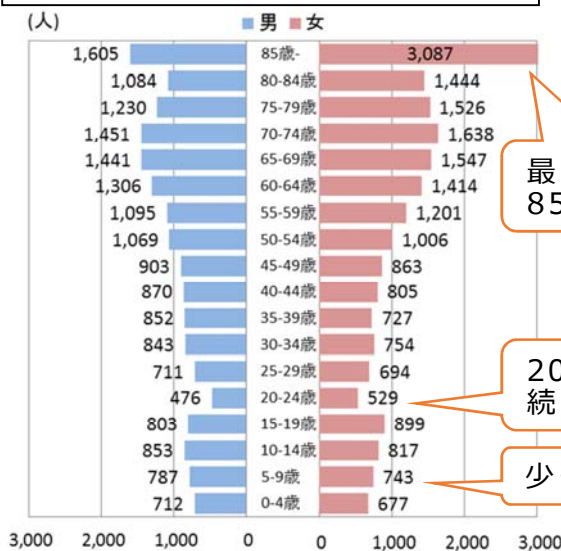
【65歳の平均余命（全国）】  
男性：19.46歳  
女性：24.31歳

団塊の世代が65～69歳に

20～24歳は、引き続き転出によるくびれ

少子化が進行

図表 3-7 人口ピラミッド(R27(2045))



令和 27 年は「すり鉢型」

最多階層が85歳以上に

20～24歳は、引き続き転出によるくびれ

少子化がさらに進行

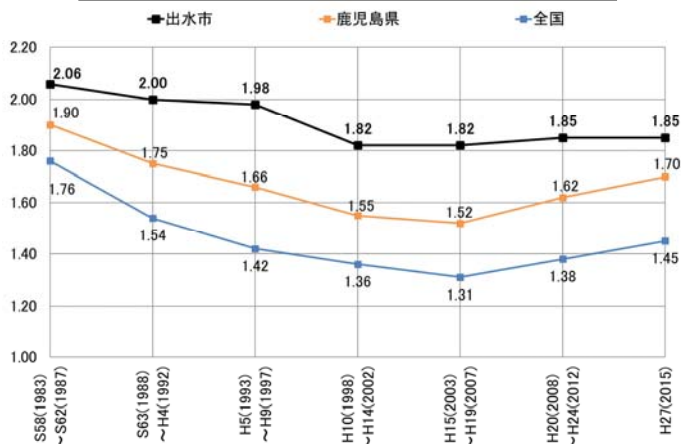
少子化の進行及び20～24歳の転出超過が進行する見込み。

### (3) 人口動態の特性

人口は、出生や死亡、転入や転出により変動します。人口動態は、地域の特徴を示す指標の一つです。

#### ① 合計特殊出生率の推移と女性の平均初婚年齢

図表 3-8 合計特殊出生率の推移



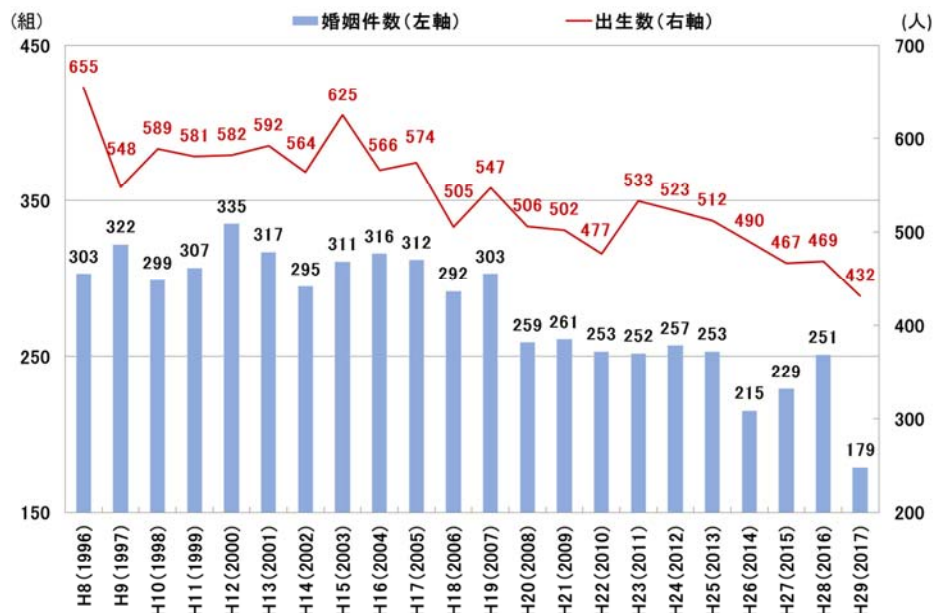
※合計特殊出生率  
一人の女性が出産可能とされる 15～49 歳までに産む子供の数の平均

※人口置換水準  
人口が長期的に増減せず一定となる出生の水準

※出所：厚労省人口動態調査特殊報告  
※出所：H27（2015）年は出水市提供資料

本市の平成 27(2015)年の合計特殊出生率は 1.85 で、県や国の平均を上回っていますが、人口置換水準（2.07 人）には至っていません。

図表 3-9 婚姻件数及び出生数



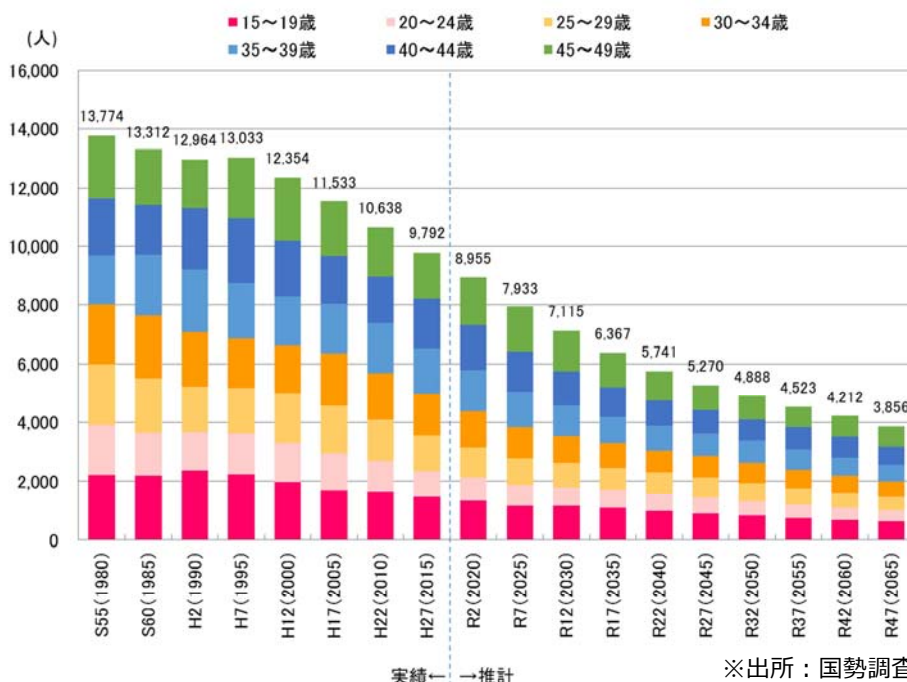
※出所：厚労省人口動態総覧・人口動態報告  
※H18(2006)までは、旧出水市、旧高尾野町、旧野田町を単純加算

近年、15～49 歳女性の人口が減少しているため、合計特殊出生率が横ばいにも関わらず、本市の出生数は減少しています。また、婚姻件数も減少傾向にあります。

合計特殊出生率は横ばい推移。出生数及び婚姻件数は減少傾向。



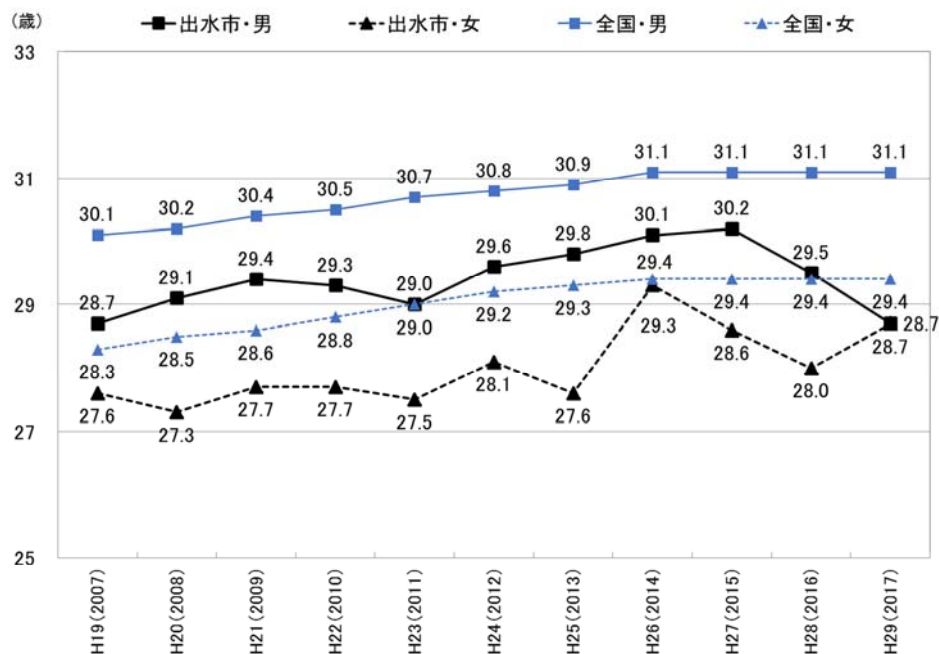
図表 3-10 15～49 歳女性の人口推移 (5 歳区分)



※出所：国勢調査、社人研推計値

15～49 歳女性の人口は、昭和 55(1980)年では 13,774 人でしたが、平成 27(2015)年には 9,792 人に減少し、今後も減少すると推計されています。

図表 3-11 平均初婚年齢の推移



※出所：人口動態統計、衛生統計年報

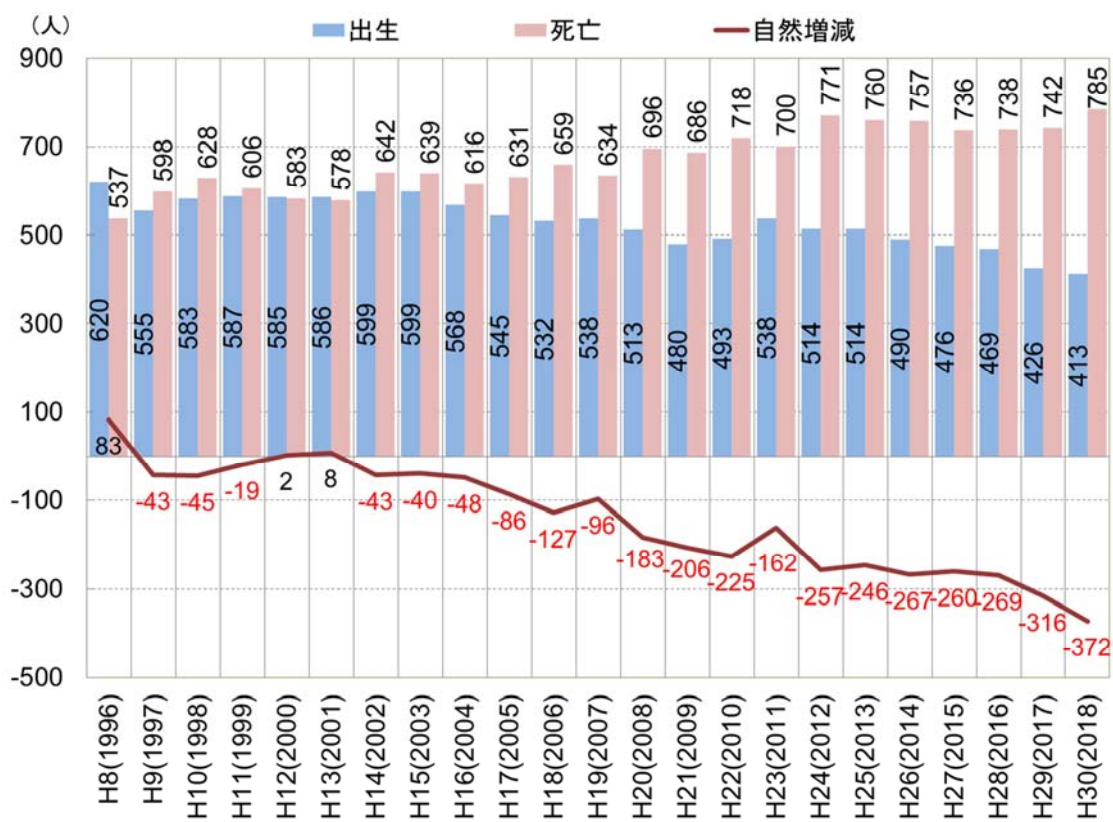
国と同様に、晩婚化の傾向がありましたが、近年本市男性の初婚年齢が低下しています。

15～49 歳女性の人口は今後も減少する見込み。

男女ともに晩婚化の傾向があるものの、男性の平均初婚年齢は低下。

② 出生数、死亡数及び転入数、転出数の推移

図表 3-12 自然動態の推移



※出所：RESAS 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

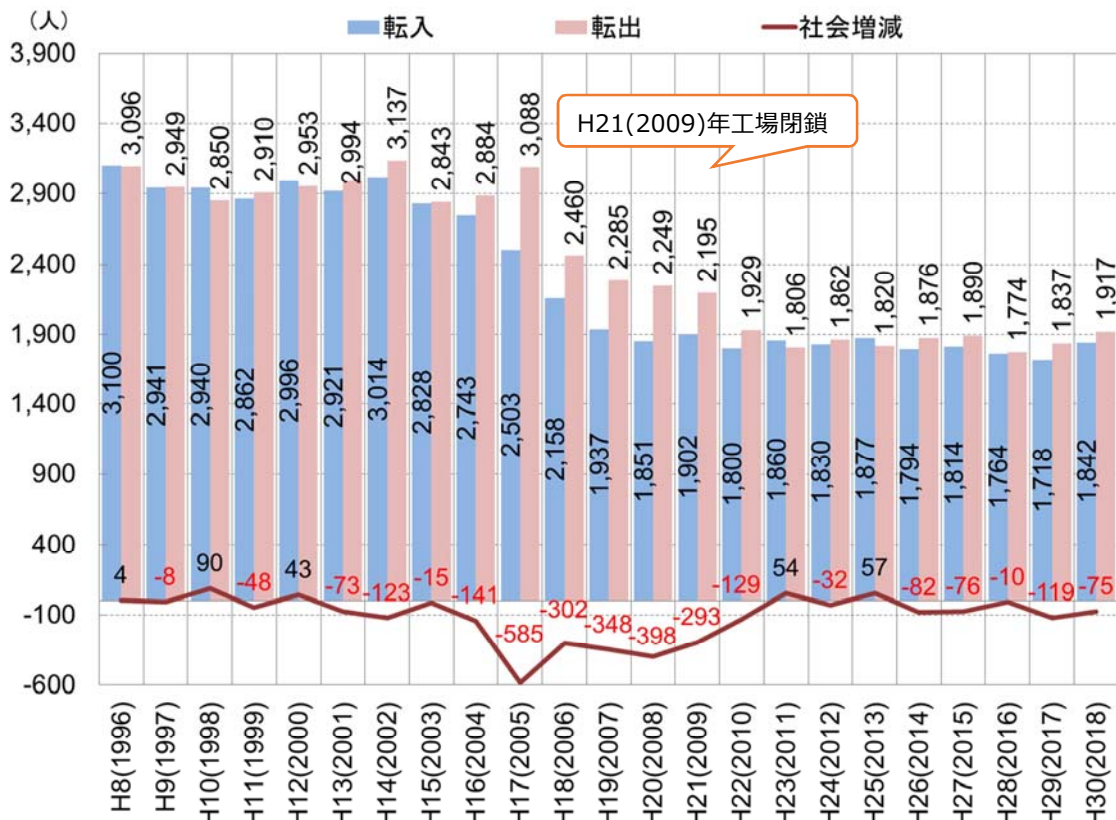
出生数は、おおむね減少傾向で推移しており、平成 30(2018)年には 413 人になりました。

死亡数は、高齢化の進行に伴って増加傾向にあり、ここ数年は 700 人台で推移しています。

出生-死亡は、平成 14(2002)年から一貫して自然減（出生<死亡）で推移しており、減少幅は年々拡大傾向にあり、平成 30(2018)年には 372 人の自然減となりました。

平成 14(2002)年から一貫して死亡数が出生数を上回る。

図表 3-13 社会動態の推移



※出所：RESAS 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

平成 8(1996)年以降、社会増（転入＞転出）と社会減（転入＜転出）を繰り返し推移していましたが、平成 13(2001)年以降は概ね社会減で推移しています。

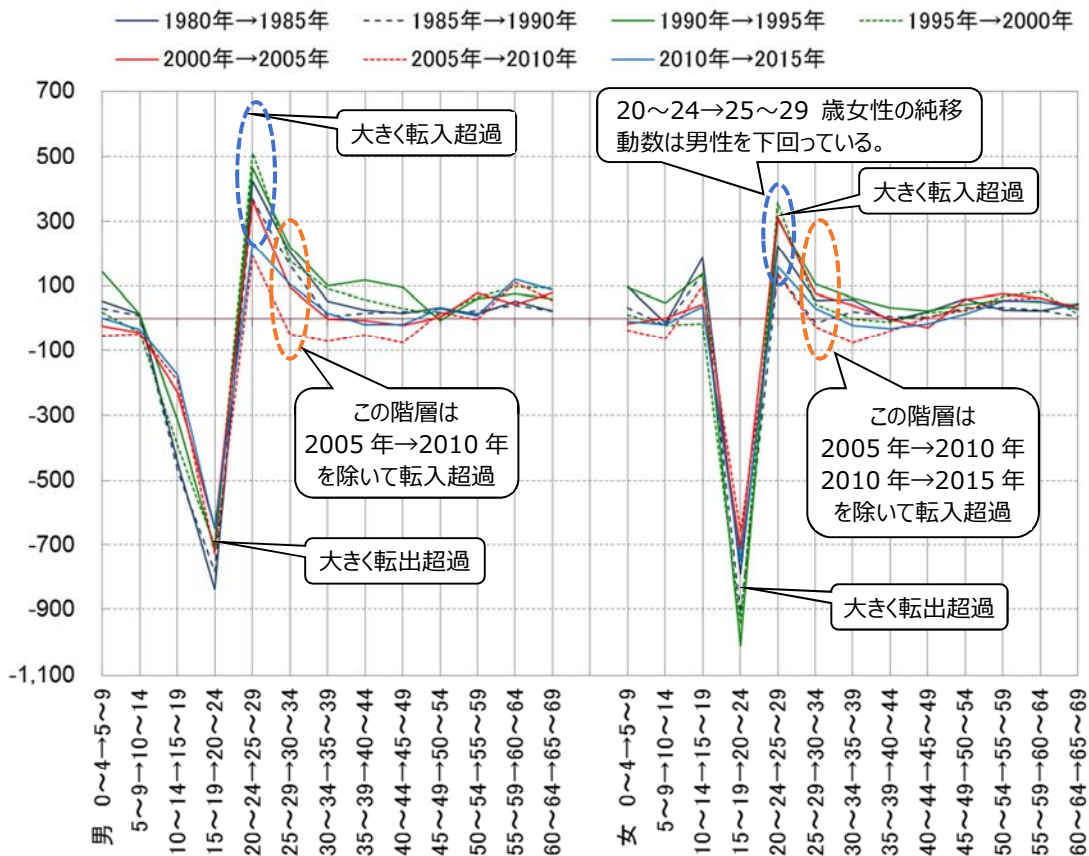
平成 20(2008)年にはリーマンショック、平成 21(2009)年にはパイオニアやNECの工場閉鎖等の影響により社会減となりましたが、その後減少幅は縮小し、平成 23(2011)年と平成 25(2013)年は転入超過に転じました。

しかしながら、平成 26(2014)年以降は再び転出超過となり、平成 30(2018)年には 75 人の社会減（転入＜転出）となっています。

平成 26(2014)年以降は一貫して転出超過の傾向。

③ 性別・年齢階級別の人口移動の状況

図表 3-14 年齢層別 5ヶ年純移動数の推移



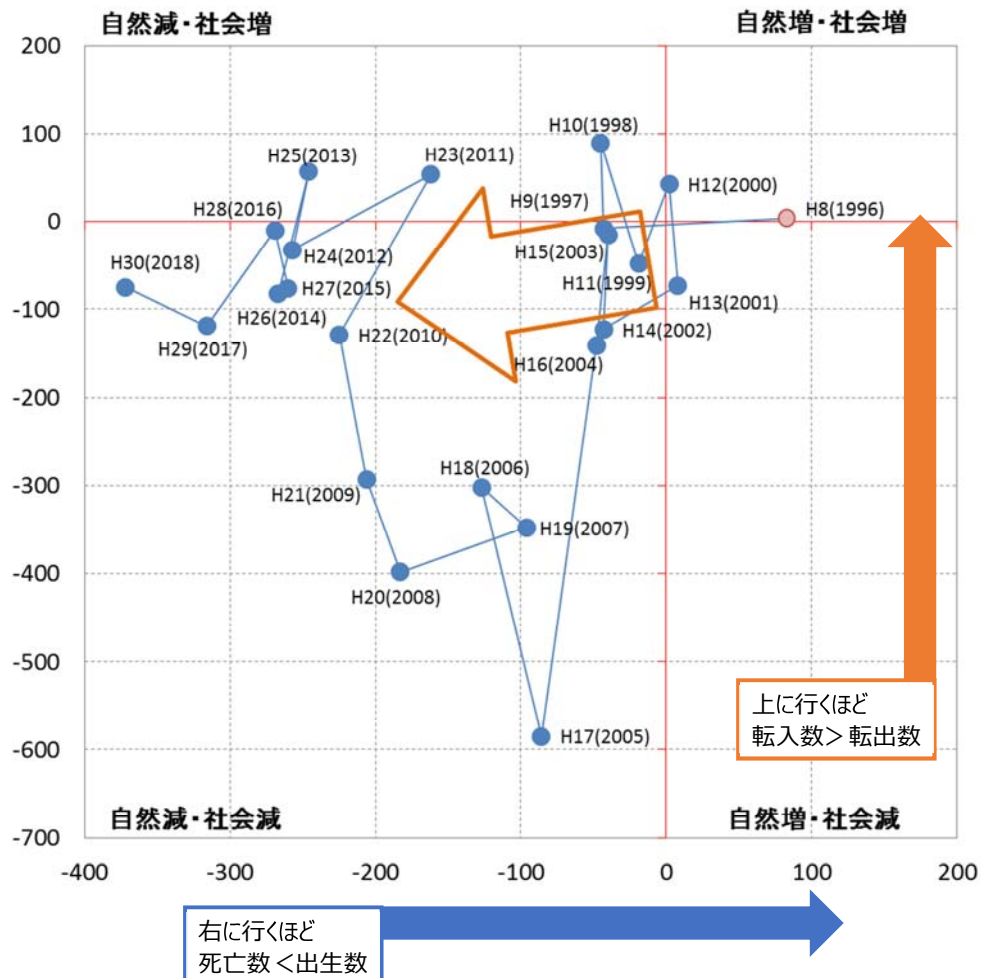
※出所：国勢調査

男女ともに 15~19→20~24 歳の移動数は就職・進学等により転出超過の傾向にあり、20~24→25~29 歳の移動数は、男女ともに転入超過の傾向にあります。しかしながら、2005年→2010年は 25~29歳→30~34歳の移動数は男女ともに転出超過に転じました。平成 21(2009)年の工場閉鎖の影響であると推察されます。

また、20~24→25~29 歳女性の転入超過数は男性を下回っています。

15~19→20~24 歳の移動数は転出超過で推移し、20~24→25~29 歳の移動数は転入超過で推移する傾向にある。  
 20~24→25~29 歳女性の転入超過数は同年齢層男性の転入超過数を下回る。

図表 3-15 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響



※出所：RESAS 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

平成 8(1996)年は自然増・社会増（出生＞死亡、転入＞転出）でした。

自然増減については、平成 12(2000)年、平成 13(2001)年を除く全ての年で減（出生＜死亡）となっています。

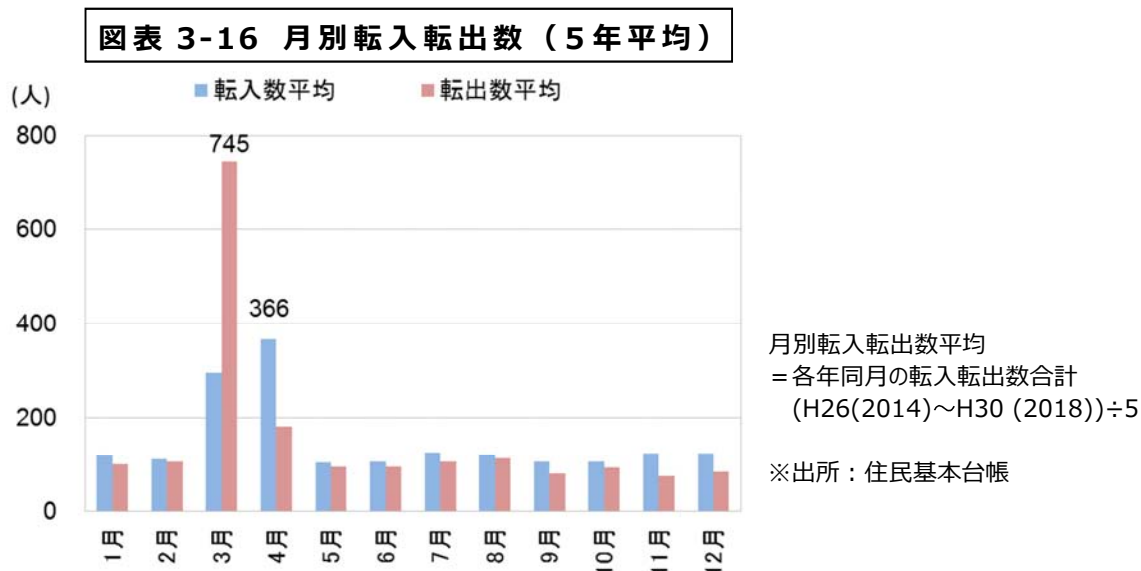
社会増減については、平成 10(1998)年、平成 12(2000)年、平成 23(2011)年、平成 25(2013)年を除く全ての年で減（転入＜転出）となっています。

自然減及び社会減が進行。

#### (4) 住民基本台帳による近年の社会移動の特性

平成 26(2014)年度～平成 30 (2018) 年度の 5 年間における市の住民基本台帳の転入者、転出者について、年次、性別、年齢、転入元(転出先)について整理、分析を行いました。なお、表示した値は、平均を除いて 5 年間の総数を示しています。

##### ① 月別転入転出状況



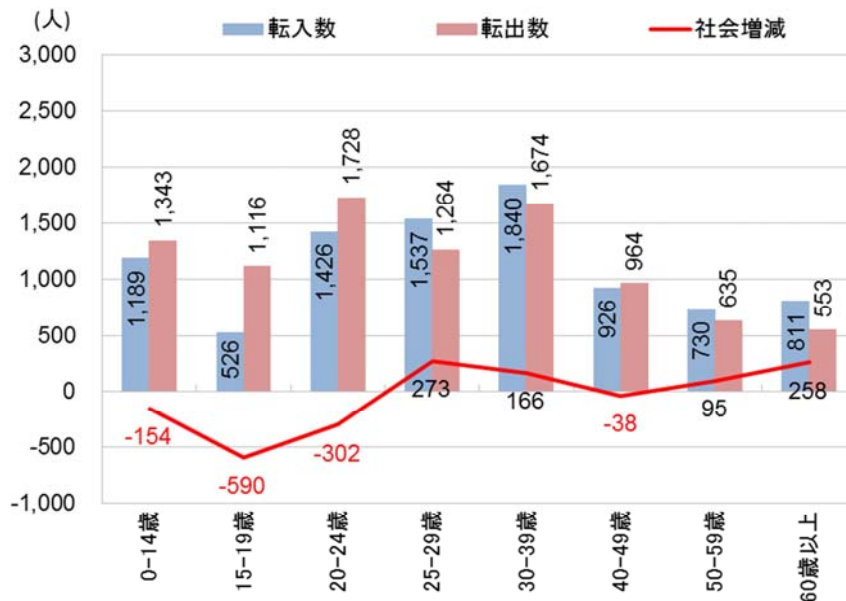
月別転入転出の状況は、3月の転出が最も多く、年間の約4割が転出しています。一方、転入は4月が最も多く、4月を除く他の月は100人程度転入しており、3月を除く全ての月で転入が転出を上回っていることが特徴となっています。

3月 は 転 出 超 過、そ の 他 の 月 は 転 入 超 過。

## ② 年齢層別転入転出状況

年齢層区分については、10代、20代の動きを詳しく見るために、0～14歳、15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳及び60歳以上の8区分としています。

**図表 3-17 年齢層別転入転出状況**  
(H26(2014)～H30(2018)年度の合計)



※出所：住民基本台帳

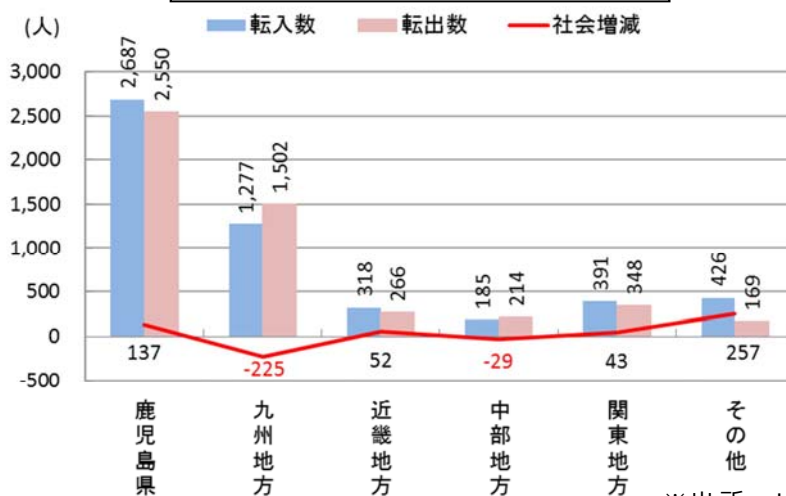
※期間中（H26(2014)～H30(2018)年度）に再転入や再転出した人数を含む

平成 26(2014)～平成 30(2018)年度の住民基本台帳の年度別の転入転出状況では、0～24歳、40～49歳は転出超過、その他の年齢層では転入超過となっています。特に15～19歳の転出が多くなっており、就職・進学等を理由とした転出だと推察されます。

0～24歳、40～49歳は転出超過、その他の年齢層では転入超過。  
特に15～19歳の転出が多い。

③ 地域別転入転出状況

図表 3-18 転入元転出先状況



※出所：H27(2015)年国勢調査

図表 3-19 地域別転入転出状況とその割合

	鹿児島県	九州地方	近畿地方	中部地方	関東地方	その他	合計
転入数 (人)	2,687	1,277	318	185	391	426	5,284
転出数 (人)	2,550	1,502	266	214	348	169	5,049
社会増減 (人)	137	-225	52	-29	43	257	235
転入元割合 (%)	50.8	24.2	6.0	3.5	7.4	8.1	100.0
転出先割合 (%)	50.5	29.8	5.3	4.2	6.9	3.3	100.0

※転出先(転入元)の地域区分は下表の通りとしています。

鹿児島県	鹿児島県
九州地方	鹿児島を除く九州(沖縄はその他に含む)
近畿地方	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中部地方	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
関東地方	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
その他	上記以外

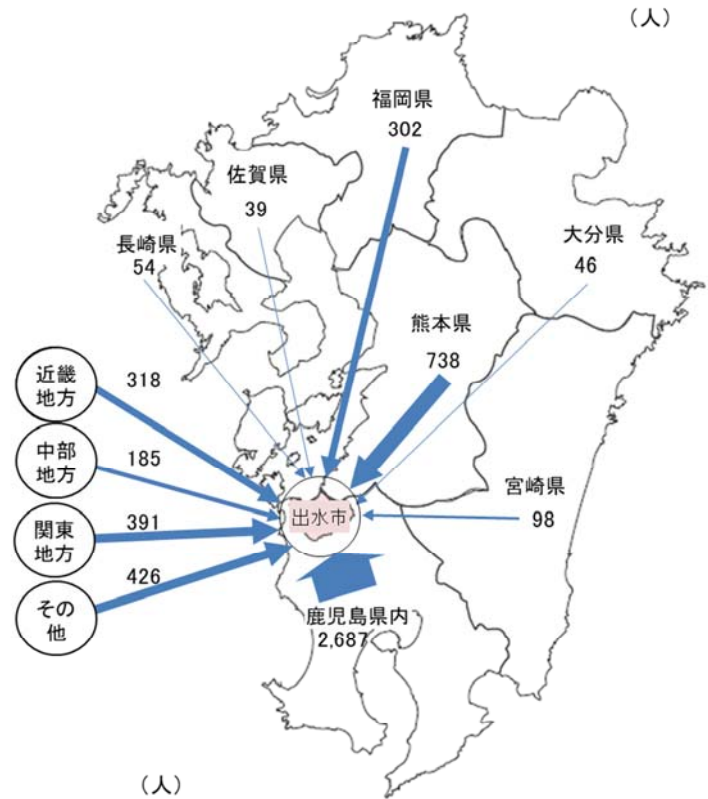
県内への転入転出が最も多く、移動者の約 50%を占めています。次いで九州地方(転入 24.2%、転出 29.8%)、関東地方(転入 7.4%、転出 6.9%)となりました。したがって、地域間の移動はおおむね 4 分の 3 が比較的近い地域との間での移動となっており、それ以外では関東地方との移動が多い傾向が見られます。

比較的近い地域(鹿児島県・九州地方)での転入転出が多く、次いで関東地方との転入転出が多い。

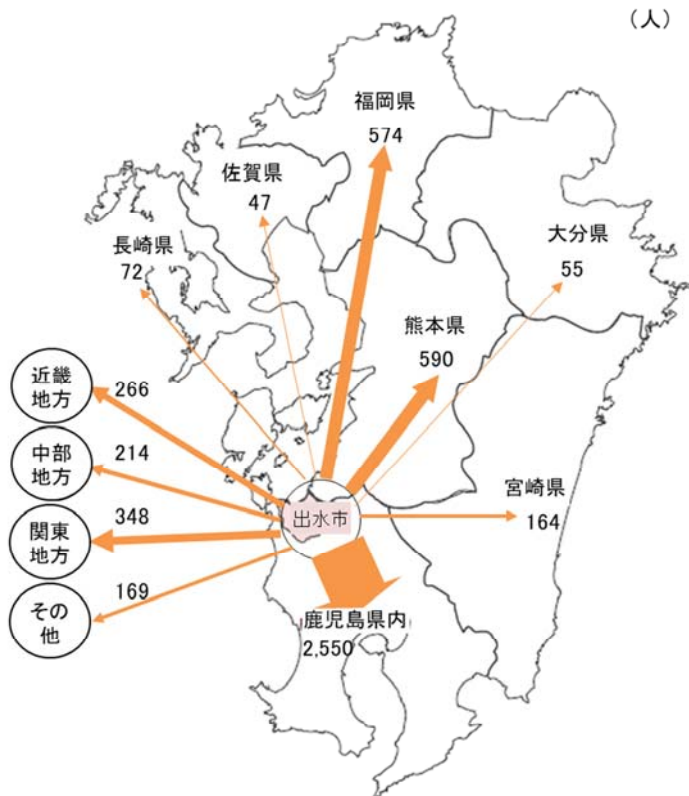


図表 3-20 地域別転入転出状況

■ 転入



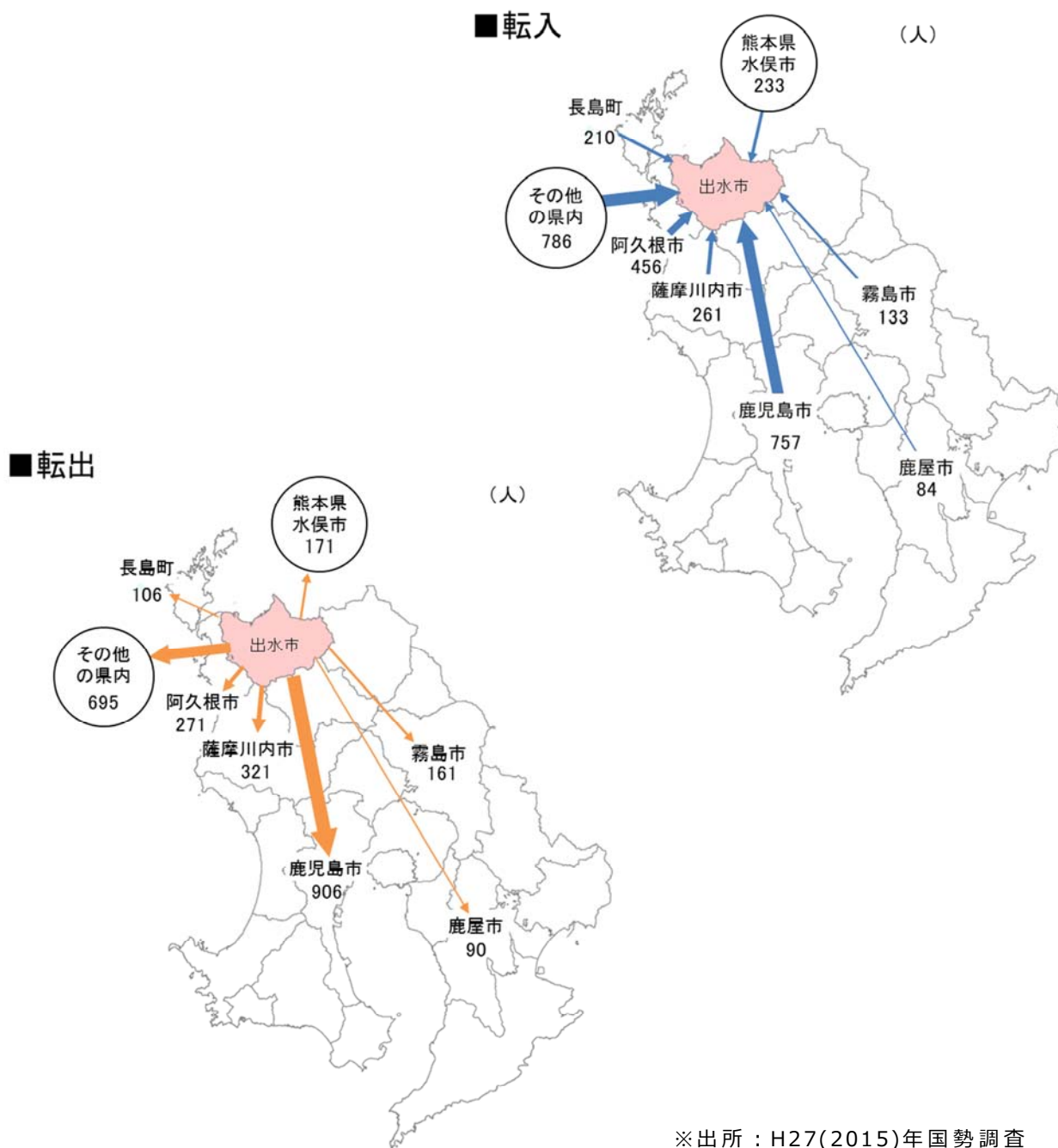
■ 転出



※出所：H27(2015)年国勢調査

九州地方では、隣接する熊本県や福岡県との転入転出が多く、次いで関東地方が多くなっている。

図表 3-21 県内及び隣県における地域別転入転出状況



転入元は、鹿児島市が最も多く、次いで阿久根市、薩摩川内市、水俣市、長島町の順となっています。また、転出先は、鹿児島市が最も多く、次いで薩摩川内市、阿久根市、水俣市、霧島市の順となっています。

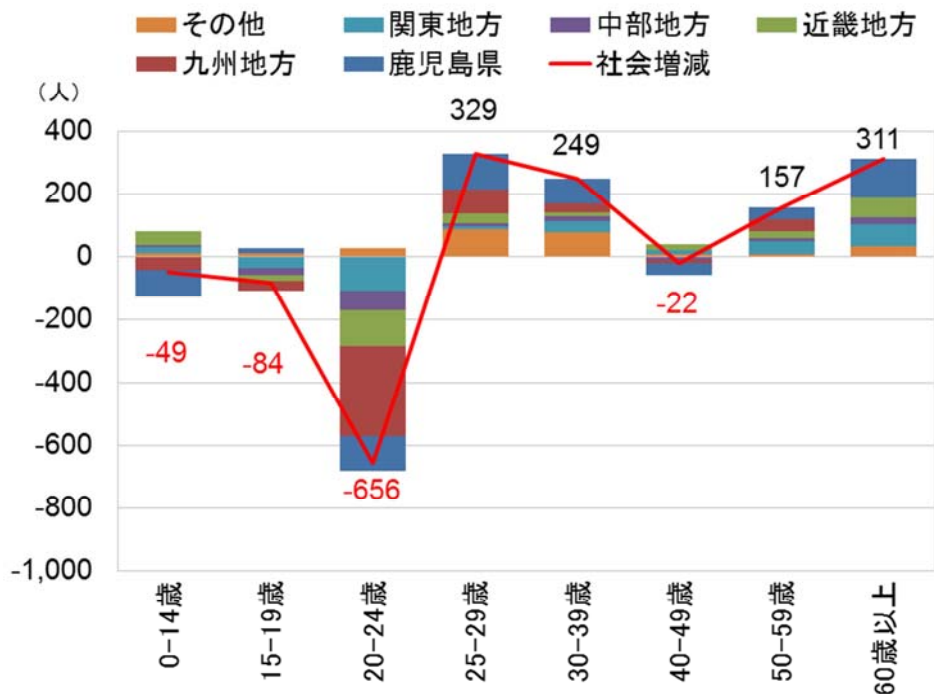
伊佐市やさつま町との転入転出は相対的に少なくなっています。

県内における転入転出は、鹿児島市が最も多く、次いで隣接する地域が多い。

## ④ 年齢層別・地域別転入転出状況

図表 3-22 年齢層別・地域別転入転出の状況

(地域別における転入者数 - 転出者数)



※出所：H27(2015)年国勢調査

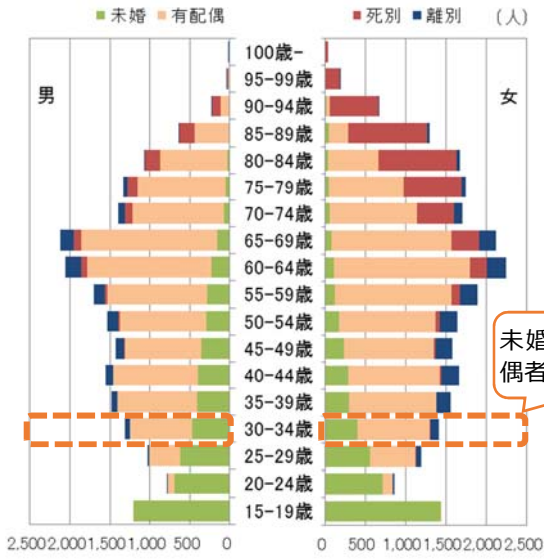
転出超過が大きいのは15～24歳の階層ですが、転出超過が大きい相手先は九州地方が最も多く、次いで県内、関東地方、近畿地方となっています。進学及び就職を理由とした流出であると推察されます。

これに対して、25～39歳の転入が多い年齢層では県内からの転入が目立っています。また、60歳以上で関東地方や近畿地方からの転入が多くなっていますが、これはリタイア後のUIJターンの傾向と見ることもできます。

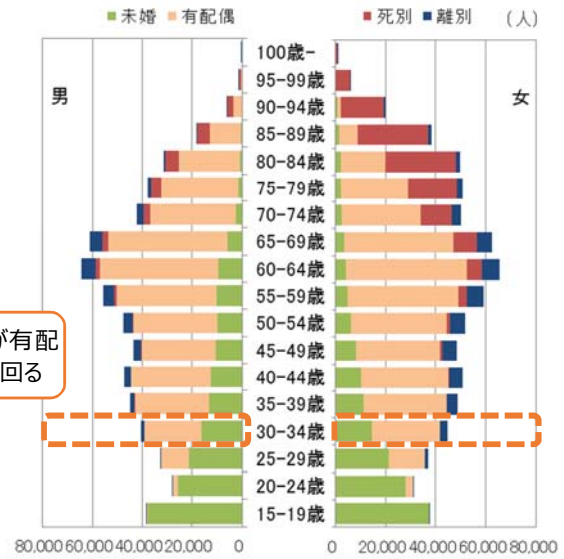
15～24歳の階層の九州地方への転出が多く、25～39歳の県内からの転入が多い。

(5) 配偶関係による特性

図表 3-23 出水市年齢層別配偶関係状況



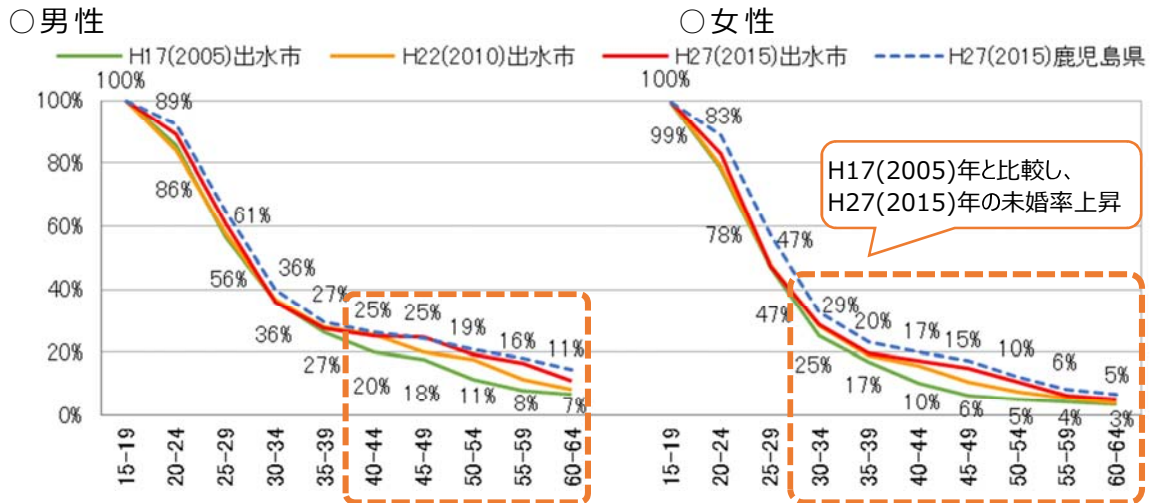
図表 3-24 鹿児島県年齢層別配偶関係状況



※未婚：まだ結婚したことない人 有配偶：現在結婚している人  
 死別：配偶者と死別し、再婚していない人  
 離別：離婚し、再婚していない人

※出所：H27(2015)年国勢調査

図表 3-25 年齢層別未婚率の状況



※H17(2005)年は旧出水市、旧高尾野町、旧野田町を単純加算 ※出所：国勢調査

平成 27(2015)年における年齢層別の配偶関係について有配偶者数と未婚者数を比較すると、本市及び県内の男女ともに 30 歳以上から有配偶者数が未婚者数を上回っています

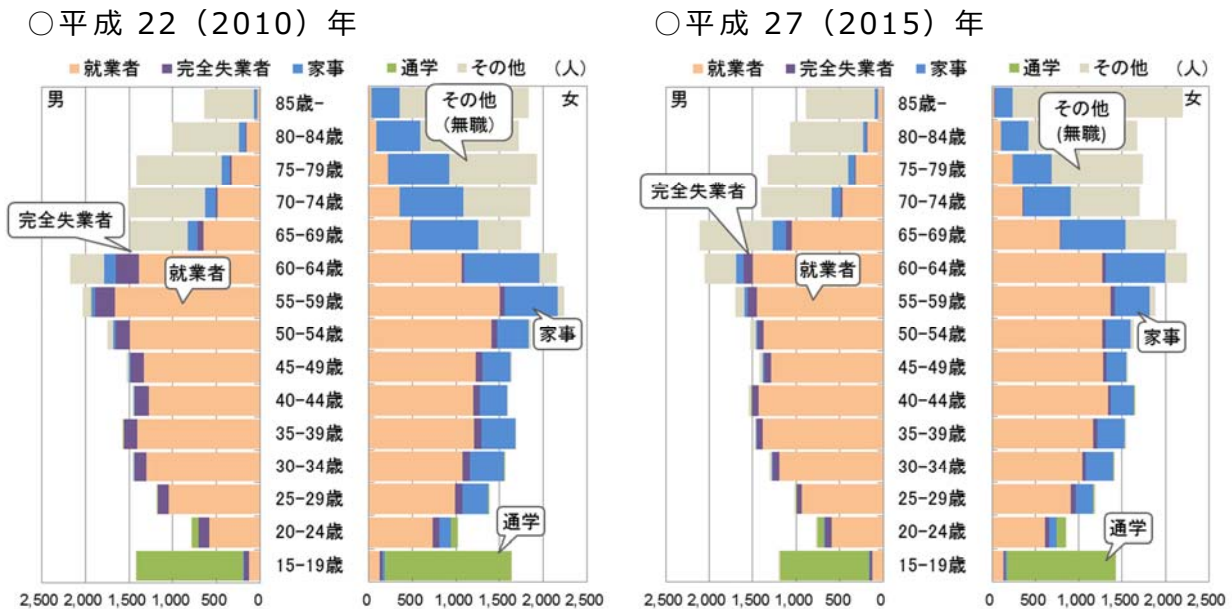
年齢層別の未婚率については、本市の未婚率は男女ともに県内の未婚率を下回っています。平成 17(2005)年と平成 27(2015)年を比較すると、40 歳以上の男性及び 30 歳以上の女性の未婚率が上昇しています。

本市においても未婚率が上昇してきている。

(6) 就業状況の特性

① 労働力状態の特性

図表 3-26 年齢層・労働力状態別の状況



※出所：国勢調査

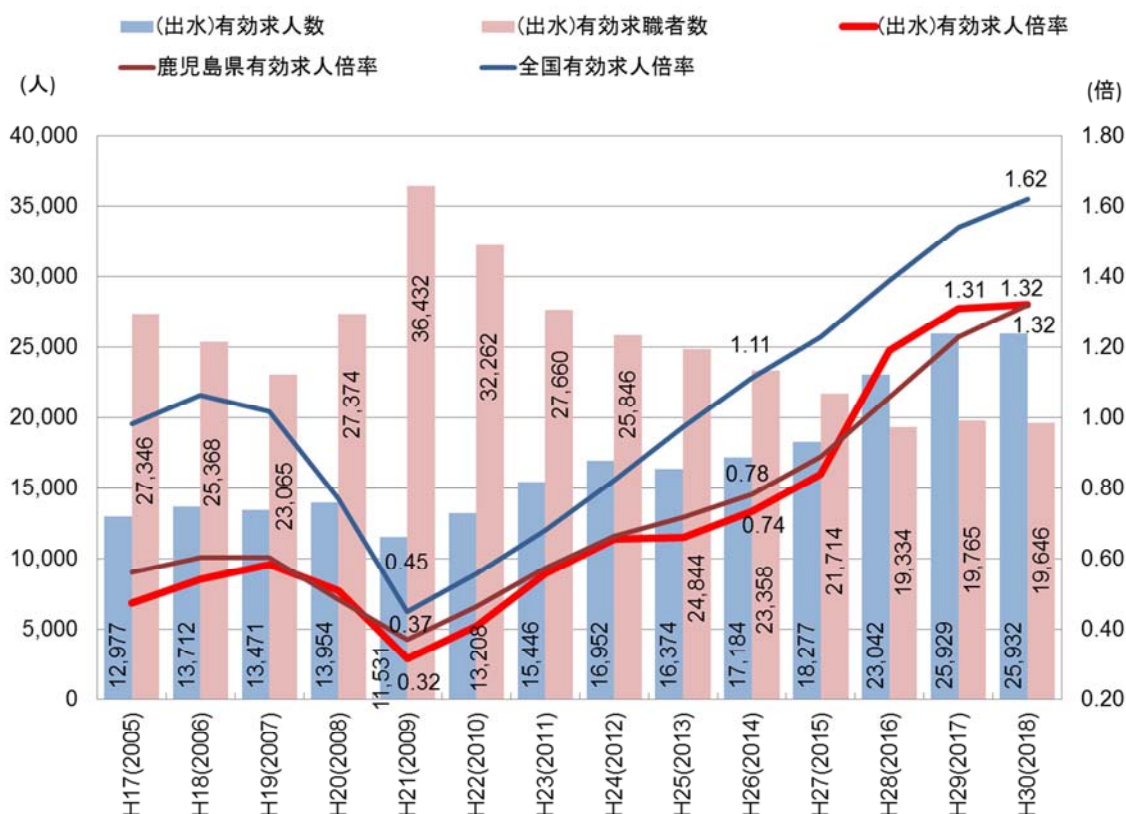
労働力状態別の人口年齢別構成について平成 22(2010)年と平成 27(2015)年と比較すると、平成 27(2015)年には完全失業者が減少しています。また、高齢者の「その他」(無職)は人数、割合ともに増加が見られます。

25～49 歳女性の平成 27(2015)年における就業者割合は平成 22(2010)年と比較すると約 5%上昇しており、女性の社会進出が進みつつあることがうかがえます。一方、同年齢層においては、家事従事者も約 15～20%見られますが、人数は 21%減少しています。

無職の高齢者が人数、割合ともに増加傾向にある。  
また、25～49 歳女性の就業割合が増加傾向にある。

② 有効求人倍率の状況

図表 3-27 有効求人倍率等の推移（年度）



※出所：鹿児島労働局雇用失業情勢、労働市場年報

出水公共職業安定所管内（出水市、阿久根市、長島町）の有効求人倍率は、平成 21(2009)年度には工場閉鎖の影響等から 0.32 倍まで低下しましたが、その後は順調に回復し、平成 26(2014)年度では 0.74 倍、平成 29(2017)年度では 1.31 倍と順調に上昇し、高い求人倍率を維持しています。また、求人者数は、平成 28(2016)年度以降一貫して求職者数を上回っています。

全国、県内の有効求人倍率についても、同じような傾向を示していますが、出水公共職業安定所管内の水準は鹿児島県の倍率に近い値で推移し、全国と比べると若干下回って推移しています。

有効求人倍率は近年上昇傾向にあり、平成 30（2018）年度では 1.32 倍となっているが、全国と比較すると 0.30 ポイント下回っている。

③ 就業構造の特性

図表 3-28 産業別就業者数の推移

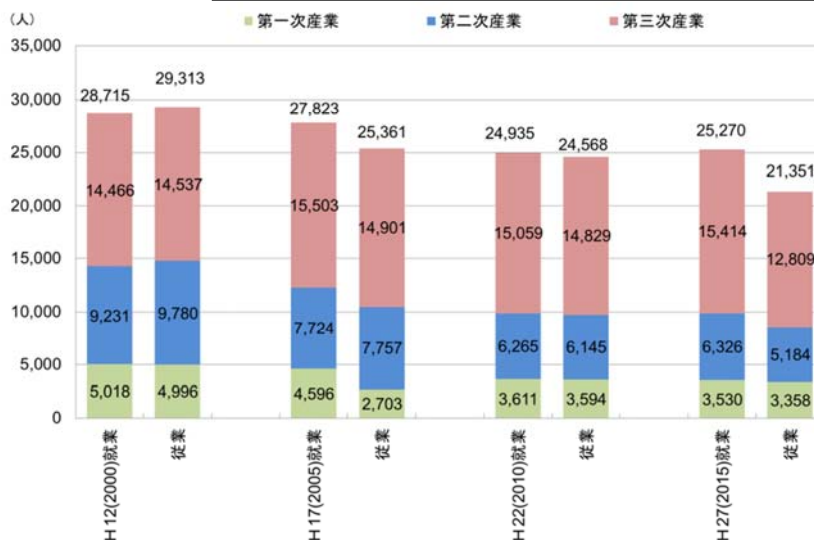
		総数	第一次産業	第二次産業	第三次産業
就業者数 (人)	H12(2000)	28,715	5,018	9,231	14,466
	H17(2005)	27,823	4,596	7,724	15,503
	H22(2010)	24,935	3,611	6,265	15,059
	H27(2015)	25,270	3,530	6,326	15,414
割合 (%)	H12(2000)	100.0	17.5	32.1	50.4
	H17(2005)	100.0	16.5	27.8	55.7
	H22(2010)	100.0	14.5	25.1	60.4
	H27(2015)	100.0	14.0	25.0	61.0
	H27(2015) 県	100.0	9.3	19.1	71.6

※出所：国勢調査

本市の就業者数について平成 22(2010)年と平成 27(2015)年を比較すると、総数は 335 人増加しました。産業別に見ると、第一次産業は 81 人の減、第二次産業は 61 人の増、第三次産業は 355 人の増となっており、就業構造のサービス化が進行しています。

また、平成 27(2015)年の産業別就業者割合を県と比較すると、本市は第一次産業と第二次産業の割合が高く、第三次産業の割合が低くなっています。

図表 3-29 産業別就業者数と従業者数の推移



※就業者と従業者の定義は次のとおり

- 就業者
  - ・市内に居住する人のうち働いている人
- 従業者
  - ・市内で働いている人(市外に居住する人を含む)

※出所：国勢調査

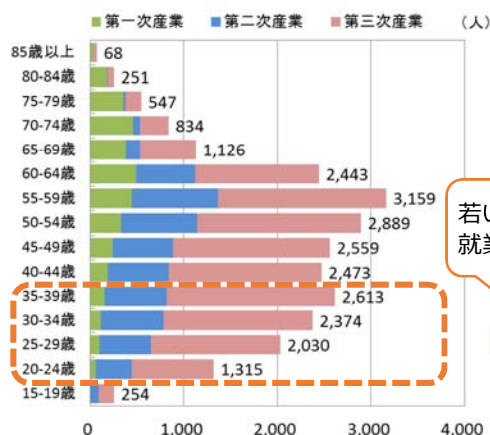
平成 12(2000)年は従業者数が就業者数を 598 人上回っていましたが、平成 17(2005)年には就業者数が従業者数を 2,462 人上回り、平成 27(2015)年は 3,919 人上回っています。本市に居住しながら市外に働きに行く人の数が増加している傾向があります。

産業別では、第三次産業の就業者数が大幅に増加し、就業構造のサービス化が進行している。

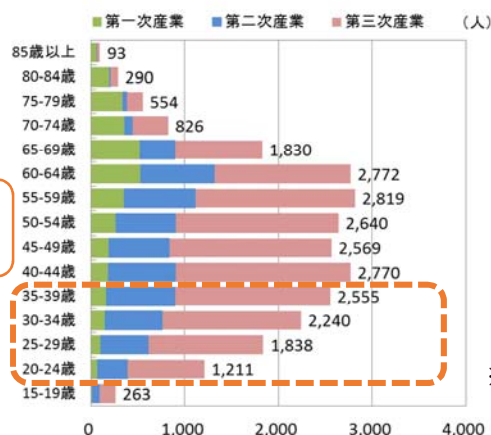
平成 17 年以降、市外から働きに来る人よりも市外に働きに出る人の方が多くなっている。

図表 3-30 年齢層別就業者数（実数）

○H22



○H27



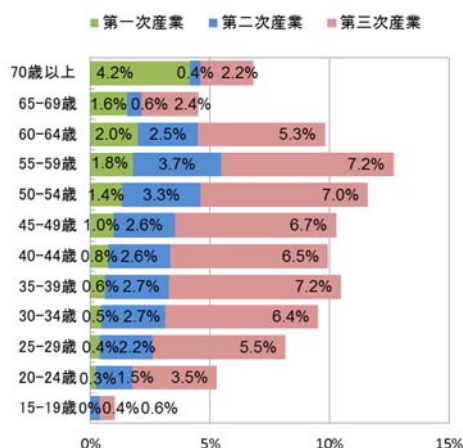
若い世代の  
就業者数減少



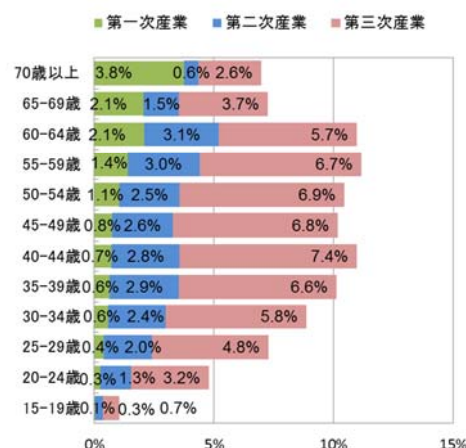
※出所：国勢調査

図表 3-31 年齢層別就業者割合

○H22



○H27



※出所：国勢調査

年齢構成別就業者数について平成 22(2010)年と平成 27(2015)年を比較すると、20～30 歳代の就業者数が 488 人減少しています。一方で 60 歳代の就業者数は増加しています。

産業別に見ると、第一次産業は 60 歳代が担い手の中心となっており、その傾向は強くなっています。第二次産業では 50 歳代が大きく減少し、60 歳代が大きく増加しています。第三次産業では 60 歳代が他に比べて大きく増加しています。

20～30 歳代の就業者が減少している。第一次産業は 60 歳代が担い手の中心になっている。

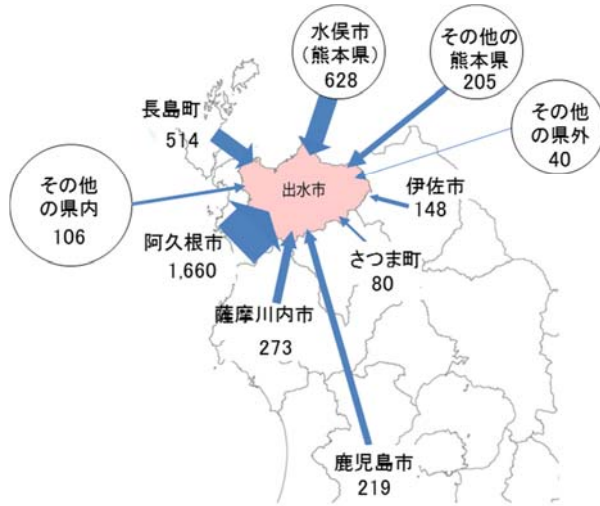


④ 通勤・通学流動

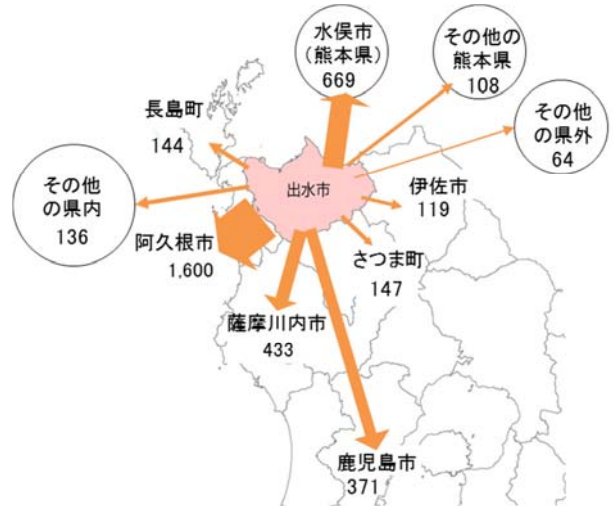
図表 3-32 通勤・通学流動（通勤・通学の合計）

（単位：人）

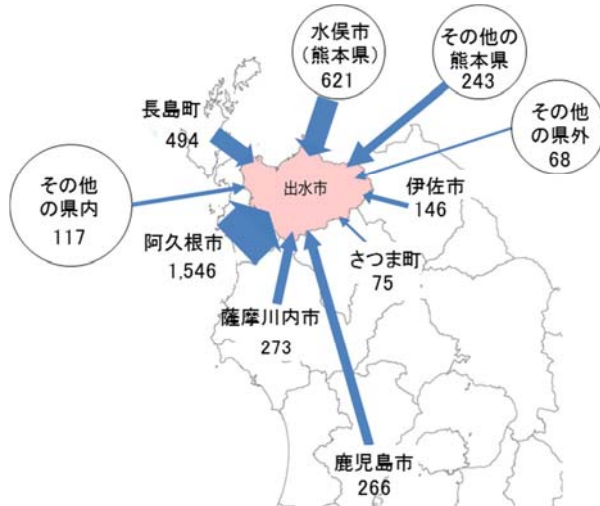
○ 出水市に流入（H22）



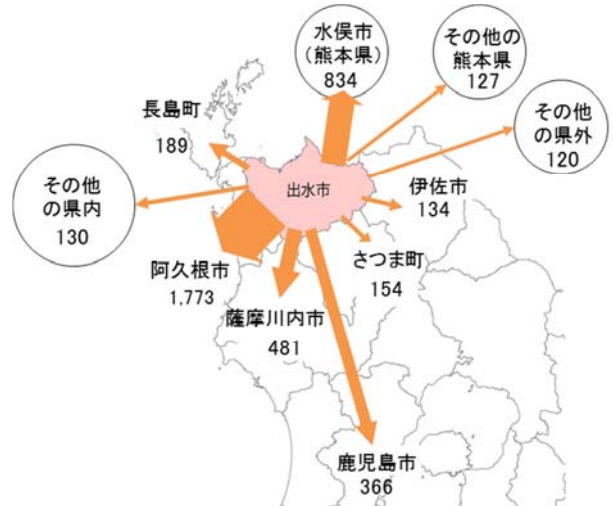
○ 出水市から流出（H22）



○ 出水市に流入（H27）



○ 出水市から流出（H27）



※出所：国勢調査

※15歳以上を対象に集計

平成 27(2015)年の本市への通勤通学による流入人口は、阿久根市が 1,546 人で最も多く、次いで水俣市、長島町となっています。流出人口は、阿久根市が 1,773 人と最も多く、次いで水俣市、薩摩川内市となっています。

平成 22(2010)年と比較すると、阿久根市・長島町・水俣市は流入人口が減少し、流出人口が増加しています。

平成 22(2010)年と平成 27(2015)年の通勤・通学流動を比較すると、近隣市町からの流入人口が減少し、流出人口が増加している。

## 4 将来人口の推計と分析

本市が目指すべき将来人口を展望するため、社人研のデータを用いて次のシミュレーションを行いました。

### ○パターン1

- ・平成 27(2015)年国勢調査を基準人口とした社人研の将来推計人口（平成 30(2018)年）に準拠

### ○パターン2

- ・合計特殊出生率が令和 7(2025)年までに 1.9、令和 27(2045)年までに人口置換水準<sup>※</sup>を超える 2.1 まで上昇
- ・高校生の地元就職が増加し、転出が抑制されたと仮定した将来推計人口

### ○パターン3

- ・パターン2に加え、毎年 20 組の若い子育て世帯が転入したと仮定した将来推計人口

### ○パターン4

- ・パターン3に加え、大学卒業後の転入（地元就職）が促進されたと仮定した将来推計人口

### ○パターン5

- ・パターン4に加え、女性（22-24 歳）の転入が促進されたと仮定した将来推計人口

※人口置換水準：2.07 人

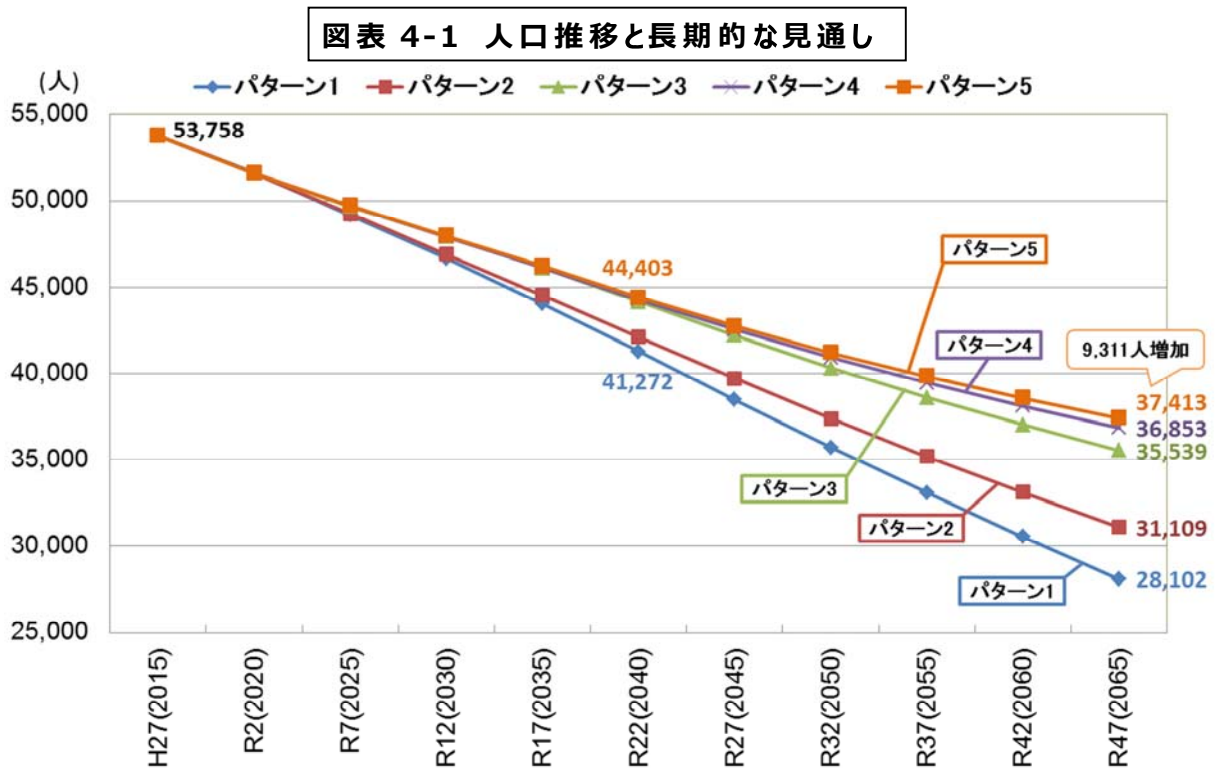
## ＜参考：各パターンの設定概要（その1）＞

パターン	推計の概要
パターン1	<p>○社人研の将来推計人口（平成30（2018）年推計）準拠。 ○主に平成22（2010）年から平成27（2015）年の人口動向を基に推計。</p> <p><b>【出生に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、平成27（2015）年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と出水市の子ども女性比との比をとり、その比が2020年以降一定として適用。</li> </ul> <p><b>【死亡に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・55～59歳→60～64歳以下の生残率は、平成22（2010）年→平成27（2015）年の鹿児島県生残率を適用（市町村間の差は極めて小さいため）。</li> <li>・60～64歳→65～69歳以上の生残率は、上述に加えて、平成22（2010）年→平成27（2015）年の出水市生残率と鹿児島県生残率の比から算出される生残率を適用。</li> </ul> <p><b>【移動に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として平成22（2010）～27（2015）年に観察された地域別人口移動傾向が継続すると仮定して適用。</li> </ul>
パターン2	<p>○パターン1をベースに、次のとおり独自の仮定を設けた。</p> <p><b>【出生に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率が令和7（2025）年までに1.9、毎年0.01上昇し、令和27（2045）年までに2.1まで引きあがったと仮定。</li> </ul> <p><b>【移動に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業後の地元就職促進により転出を抑制と仮定。 令和3（2021）～12（2030）年に毎年10人（15-19歳の男女各5人） 令和13（2031）～22（2040）年に毎年20人（15-19歳の男女各10人） 令和23（2041）年以降毎年30人（15-19歳の男女各15人）</li> </ul>
パターン3	<p>○パターン2をベースに、次のとおり独自の仮定を設けた。</p> <p><b>【出生に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率引き上げ（パターン2と同じ）</li> </ul> <p><b>【移動に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業後の転出抑制（パターン2と同じ）</li> <li>・令和3（2021）年より毎年20組の子育て世帯（夫30-34歳、妻30-34歳、子0-4歳の男女1人ずつ）が転入したと仮定。</li> </ul>

＜参考：各パターンの設定概要（その2）＞

パターン	推計の概要
パターン4	<p>○パターン3をベースに、次のとおり独自の仮定を設けた。</p> <p><b>【出生に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合計特殊出生率はパターン2と同じ</li> </ul> <p><b>【移動に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校卒業後の転出抑制（パターン2と同じ）</li> <li>・ 子育て世帯の転入促進（パターン3と同じ）</li> <li>・ 大学卒業後に地元へUターン就職し、転入を促進と仮定 令和6（2024）～12(2030)年までに毎年16人（20-24歳の男女各8人） 令和13(2031)～22(2040)年に毎年20人（15-19歳の男女各10人） 令和23(2041)年以降毎年30人（15-19歳の男女各15人）</li> </ul>
パターン5	<p>○パターン4をベースに、次のとおり独自の仮定を設けた。</p> <p><b>【出生に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合計特殊出生率はパターン2と同じ</li> </ul> <p><b>【移動に関する仮定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校卒業後の転出抑制（パターン2と同じ）</li> <li>・ 子育て世帯の転入促進（パターン3と同じ）</li> <li>・ 大学卒業後の転入促進（パターン4と同じ）</li> <li>・ 女性（22-24歳）の転入増加と仮定 令和3（2021）～12(2030)年に毎年3人 令和13(2031)～22(2040)年に毎年5人 令和23(2041)年以降毎年8人</li> </ul>

## (1) 人口推移と長期的な見通し



※出所：社人研、独自推計

社人研の推計（パターン1）、高校生の地元就職者増加（パターン2）、子育て世帯の移住促進（パターン3）、大学卒業後のUターン促進（パターン4）、女性の転入促進（パターン5）の5通りの推計を行いました。

令和22(2040)年の推計人口は、パターン1では41,272人、パターン5では44,403人（3,131人増加）、令和47(2065)年の推計人口は、パターン1では28,102人であるのに対し、パターン5では37,413人（9,311人増加）となる見込みであり、合計特殊出生率の上昇と、転出抑制、転入促進による社会減の抑制が、人口減少に歯止めをかける効果があることが分かります。

また、パターン2とパターン3との推計値では、令和7(2025)年より大きな乖離が生じ始め、令和47(2065)年には4,430人の乖離があることから、子育て世帯の移住促進が効果的であると考えられます。

社人研の推計では45年後である令和47(2065)年に30,000人を割り込む見込みであるが、高校生の地元就職促進や子育て世帯の移住促進などにより人口減少に歯止めがかけられる。

(2) 人口構成の推移と長期的な見通し

図表 4-2 総人口に占める年齢 3 区分別の推移見通し

パターン1 (人)

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総数	53,758	51,594	49,162	46,655	44,021	41,272	38,463	35,725	33,096	30,570	28,102
0-14歳	7,549	7,077	6,623	6,051	5,507	5,044	4,589	4,180	3,824	3,520	3,244
15-64歳	29,810	27,069	24,847	23,153	21,506	19,585	17,821	16,212	14,870	13,670	12,702
65歳以上	16,399	17,447	17,692	17,451	17,007	16,642	16,052	15,333	14,403	13,380	12,156
0-14歳	14.0%	13.7%	13.5%	13.0%	12.5%	12.2%	11.9%	11.7%	11.6%	11.5%	11.5%
15-64歳	55.5%	52.5%	50.5%	49.6%	48.9%	47.5%	46.3%	45.4%	44.9%	44.7%	45.2%
65歳以上	30.5%	33.8%	36.0%	37.4%	38.6%	40.3%	41.7%	42.9%	43.5%	43.8%	43.3%

パターン2 (人)

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総数	53,758	51,567	49,242	46,901	44,527	42,111	39,703	37,389	35,198	33,120	31,109
0-14歳	7,549	7,051	6,654	6,186	5,812	5,491	5,187	4,913	4,661	4,437	4,242
15-64歳	29,810	27,069	24,897	23,265	21,708	19,978	18,464	17,143	16,135	15,303	14,711
65歳以上	16,399	17,447	17,692	17,451	17,007	16,642	16,052	15,333	14,403	13,380	12,156
0-14歳	14.0%	13.7%	13.5%	13.2%	13.1%	13.0%	13.1%	13.1%	13.2%	13.4%	13.6%
15-64歳	55.5%	52.5%	50.6%	49.6%	48.8%	47.4%	46.5%	45.9%	45.8%	46.2%	47.3%
65歳以上	30.5%	33.8%	35.9%	37.2%	38.2%	39.5%	40.4%	41.0%	40.9%	40.4%	39.1%

パターン3 (人)

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総数	53,758	51,567	49,668	47,930	46,121	44,151	42,198	40,305	38,596	37,032	35,539
0-14歳	7,549	7,051	6,880	6,817	6,625	6,427	6,069	5,800	5,611	5,478	5,381
15-64歳	29,810	27,069	25,097	23,662	22,489	21,082	20,077	18,971	18,183	17,590	17,257
65歳以上	16,399	17,447	17,692	17,451	17,007	16,642	16,052	15,534	14,802	13,964	12,901
0-14歳	14.0%	13.7%	13.9%	14.2%	14.4%	14.6%	14.4%	14.4%	14.5%	14.8%	15.1%
15-64歳	55.5%	52.5%	50.5%	49.4%	48.8%	47.8%	47.6%	47.1%	47.1%	47.5%	48.6%
65歳以上	30.5%	33.8%	35.6%	36.4%	36.9%	37.7%	38.0%	38.5%	38.4%	37.7%	36.3%

パターン4 (人)

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総数	53,758	51,567	49,704	47,908	46,136	44,273	42,530	40,920	39,452	38,115	36,853
0-14歳	7,549	7,051	6,884	6,682	6,423	6,224	6,053	5,914	5,799	5,707	5,650
15-64歳	29,810	27,069	25,129	23,775	22,705	21,406	20,424	19,472	18,851	18,444	18,271
65歳以上	16,399	17,447	17,692	17,451	17,007	16,642	16,052	15,534	14,802	13,964	12,933
0-14歳	14.0%	13.7%	13.8%	13.9%	13.9%	14.1%	14.2%	14.5%	14.7%	15.0%	15.3%
15-64歳	55.5%	52.5%	50.6%	49.6%	49.2%	48.4%	48.0%	47.6%	47.8%	48.4%	49.6%
65歳以上	30.5%	33.8%	35.6%	36.4%	36.9%	37.6%	37.7%	38.0%	37.5%	36.6%	35.1%

パターン5

(人)

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総数	53,758	51,567	49,723	47,950	46,218	44,403	42,734	41,205	39,824	38,579	37,413
0-14歳	7,549	7,051	6,888	6,694	6,451	6,272	6,129	6,019	5,936	5,869	5,838
15-64歳	29,810	27,069	25,144	23,805	22,760	21,489	20,553	19,651	19,086	18,745	18,627
65歳以上	16,399	17,447	17,692	17,451	17,007	16,642	16,052	15,534	14,802	13,964	12,948
0-14歳	14.0%	13.7%	13.9%	14.0%	14.0%	14.1%	14.3%	14.6%	14.9%	15.2%	15.6%
15-64歳	55.5%	52.5%	50.6%	49.6%	49.2%	48.4%	48.1%	47.7%	47.9%	48.6%	49.8%
65歳以上	30.5%	33.8%	35.6%	36.4%	36.8%	37.5%	37.6%	37.7%	37.2%	36.2%	34.6%

※推計人口は小数点第一位を四捨五入しているため、総数が内訳の合計と一致しないものもある。

※割合は小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%とならないものもある。

全てのパターンにおいて、15～64歳までの生産年齢人口割合は令和7(2025)年にかけて大幅に減少し、その後も減少傾向で推移し、パターン1以外は令和42(2060)年に緩やかな上昇に転じます。これは、65歳以上の老年人口の割合が減少することによるものであると推察されます。

令和42(2060)年の生産年齢人口割合は、パターン1では44.7%となる一方、パターン5では48.6%となり、転出抑制及び転入促進の施策展開等により人口構成の偏りは一定程度抑制できると考えられます。

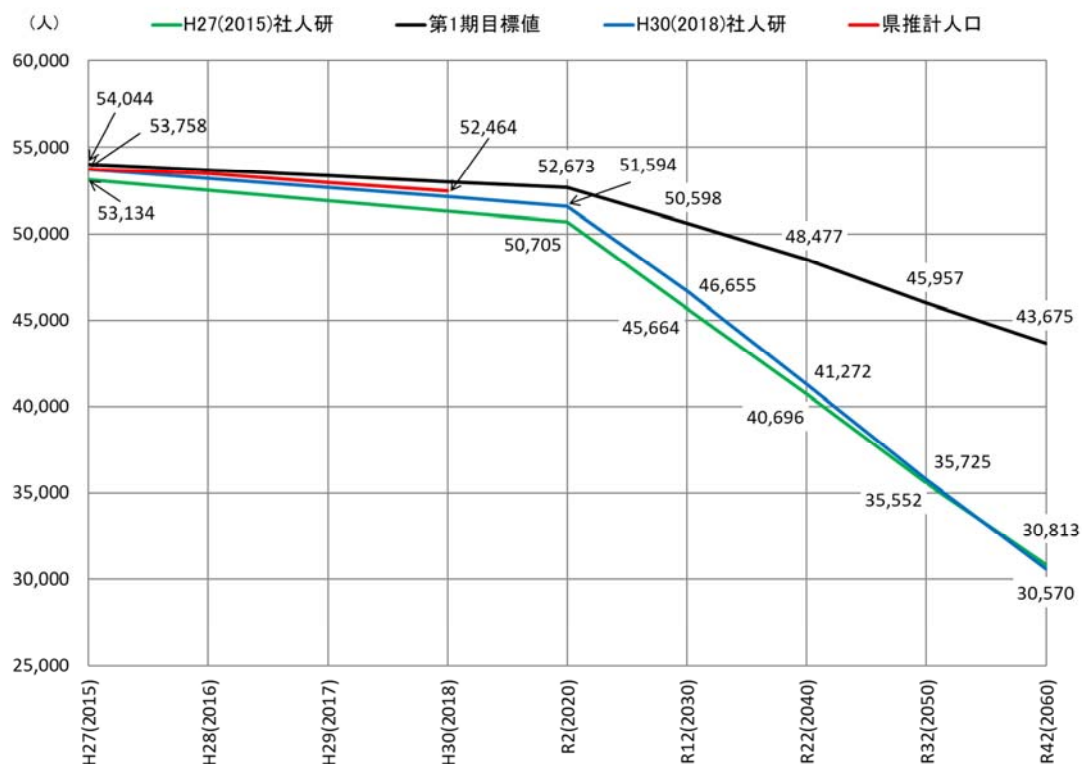
転出抑制や転入促進の施策展開等により人口構成の偏りは一定程度抑制できると考えられる。

## 5 人口の将来展望

### (1) 目指すべき将来の方向

#### ① 第1期出水市人口ビジョンの目標人口の検証

図表 5-1 第1期目標人口・社人研推計・県推計人口の比較



※出所：平成 27(2015)年人口ビジョン、平成 30(2018)年社人研推計、県推計人口

平成 27(2015)年の国勢調査結果では、本市の人口は同年の社人研推計を 624 人上回りましたが、同年に策定した人口ビジョンの目標値（以下「第1期目標値」と言います。）を 286 人下回る結果となりました。

平成 30(2018)年の社人研推計や県の推計人口を見ても、人口は減少し続け、第1期目標値との乖離はさらに拡大する見込みです。平成 30(2018)年の社人研推計と第1期目標値を比較して見ると、令和 2(2020)年には 1,079 人の差となり、令和 42(2060)年では 13,105 人の差が生じると推計されます。

(参考)

平成 27(2015)年人口ビジョン策定時の目標

i 短期的（令和 2(2020)年）目標

転入が転出を超過することを目指します。

ii 中期的（令和 7(2025)年）目標

平成 17(2005)～22(2010)年の純移動率に 2.0%加算した水準を目指します。

iii 長期的（令和 42(2060)年）目標

合計特殊出生率を第1期策定の 1.85 から令和 22(2040)年には 2.1 まで引き上げるとともに、社人研の年齢層別純移動率仮定値に 2.0 パーセントを加算した値を持続していくことを目指し、人口 43,000 人台の確保を目標とします。



図表 5-2 校区別人口推計の概要

(人)

	H27(2015)	R22(2040)	R47(2065)	R22(2040) H27年比	R47(2065) H27年比
全体	54,952	42,965	29,597	78%	54%
上場小学校区	177	131	81	74%	46%
大川内小学校区	636	330	145	52%	23%
東出水小学校区	5,579	4,500	3,190	81%	57%
出水小学校区	5,862	4,693	3,288	80%	56%
西出水小学校区	11,398	9,475	6,795	83%	60%
米ノ津東小学校区 (桂島含)	6,563	5,069	3,388	77%	52%
米ノ津小学校区	5,368	4,033	2,712	75%	51%
切通小学校区	720	469	286	65%	40%
鶴荘学園校区	774	556	355	72%	46%
蕨島小学校区	155	96	58	62%	37%
高尾野小学校区	8,238	6,492	4,504	79%	55%
下水流小学校区	3,066	2,588	1,883	84%	61%
江内小学校区	2,182	1,417	809	65%	37%
野田小学校区	4,234	3,116	2,103	74%	50%

※住民基本台帳(平成 27(2015)年)を基に社人研のパラメータを用いて推計  
 □は平成 27 年対比 50~59%、■は平成 27 年対比 50%未満

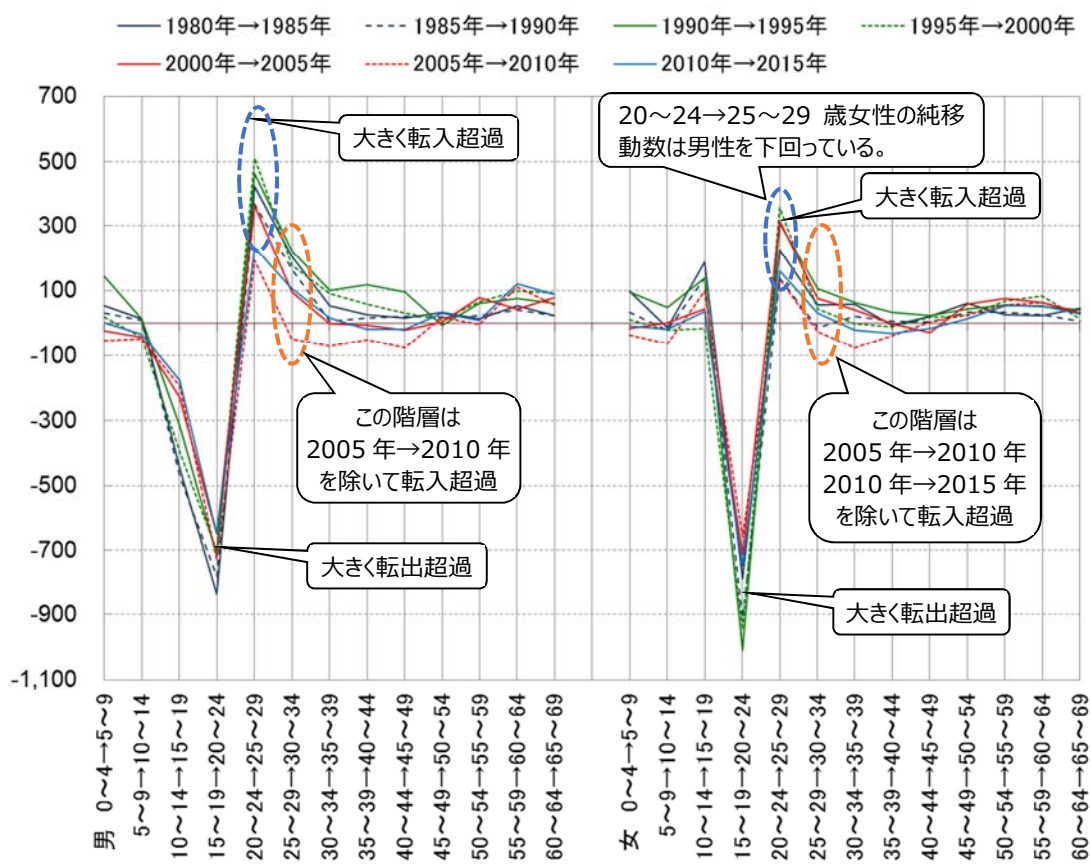
社人研によると、令和 47(2065)年における本市人口は 28,102 人となり、平成 27(2015)年の人口の 52%まで減少すると見込まれています。

今回の人口ビジョンでは、平成 27(2015)年の住民基本台帳人口を基に、社人研と同様の推計方法を用い、小学校区ごとの人口推計を行いました。推計の結果、全小学校区で人口は減少し、14 校区中 12 校区で令和 47(2065)年の人口が平成 27(2015)年の人口の 6 割未満となる見込みです。また、小学校区によるばらつきも見られることから、この急激な人口減少を抑制し、将来の人口曲線を押し上げる施策に取り組むとともに、人口が減少しても持続可能な地域づくりに今から取り組む必要があります。

#### 【自然増減における課題】

本市の合計特殊出生率は、国や県よりも高い水準にあります。近年横ばいで推移しています (P.6 図表 3-8)。そこで、出産を望む人の希望をかなえ、安心して出産・子育てができる環境を整えるための政策に引き続き取り組むとともに、魅力あるまちづくりを推進することで、合計特殊出生率が 2.07 を超える水準まで回復を図ることが必要な状況にあります。

図表 5-3 年齢層別 5ヶ年純移動数の推移（再掲）



※出所：国勢調査

【社会増減における課題】

社会減は、自然減と併せ、人口減少に拍車をかけています。

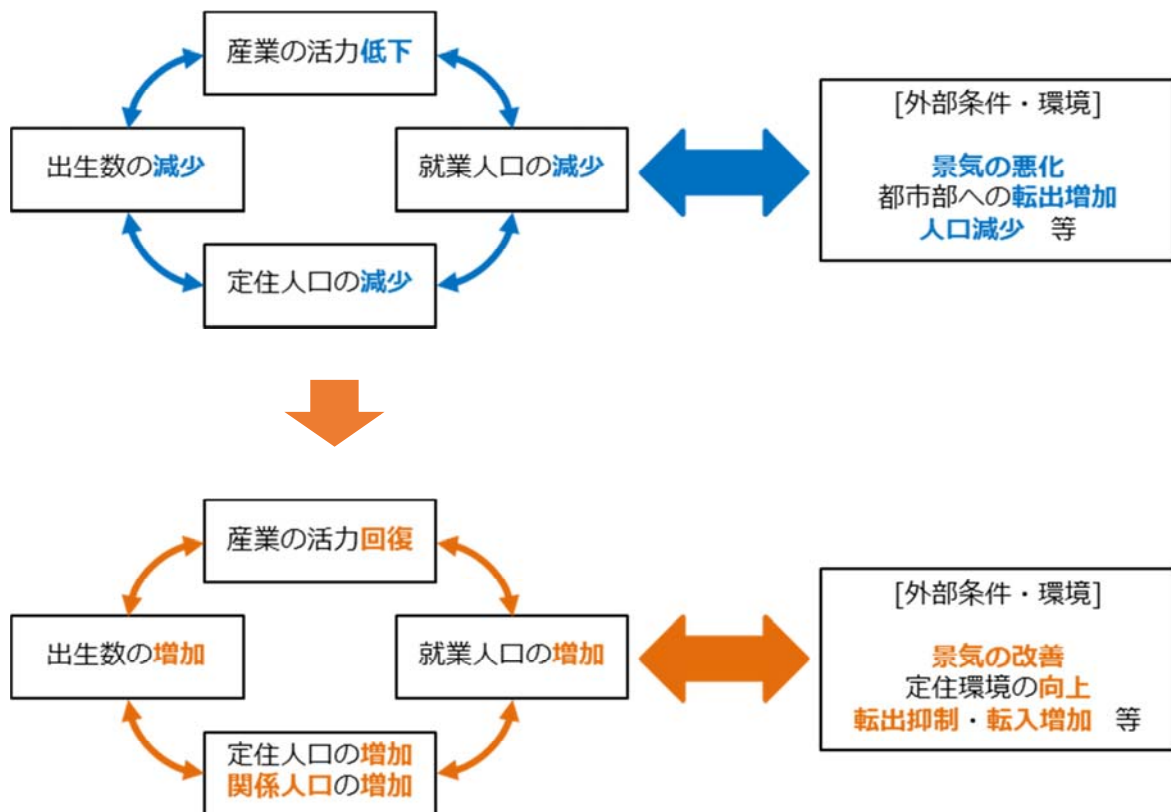
特に、15～24 歳までの転出が多く、若い世代の転出を抑制し、転入を促進する必要があります。中でも、20～24→25～29 歳女性の転入超過数が、同年齢層の男性の転入超過数を下回っていることから、20～24 歳女性の転入を促進する必要があります。

また、生産年齢人口の減少が見込まれていることから、子育て世帯の移住促進や転出者の関係人口化を促進するとともに、まちの魅力を高め、「住みたいまち」にすることで、社会減に歯止めをかける必要があります。

自然減と社会減に歯止めをかけるために、婚姻数や出生率の向上、高校生の地元就職率と定着率の向上、子育て世帯の移住促進、転出者の関係人口化等に取り組む必要がある。

## ③ 目指すべき将来の方向

図表 5-4 好循環への転換イメージ



人口減少に歯止めをかけるためには、若い世代の転出抑制、転入促進を行い、地元での結婚・出産・子育てにつなげるとともに、雇用環境、定住環境の向上及び若者が受け入れやすい本市のライフスタイルを確立することを目指す必要があります。

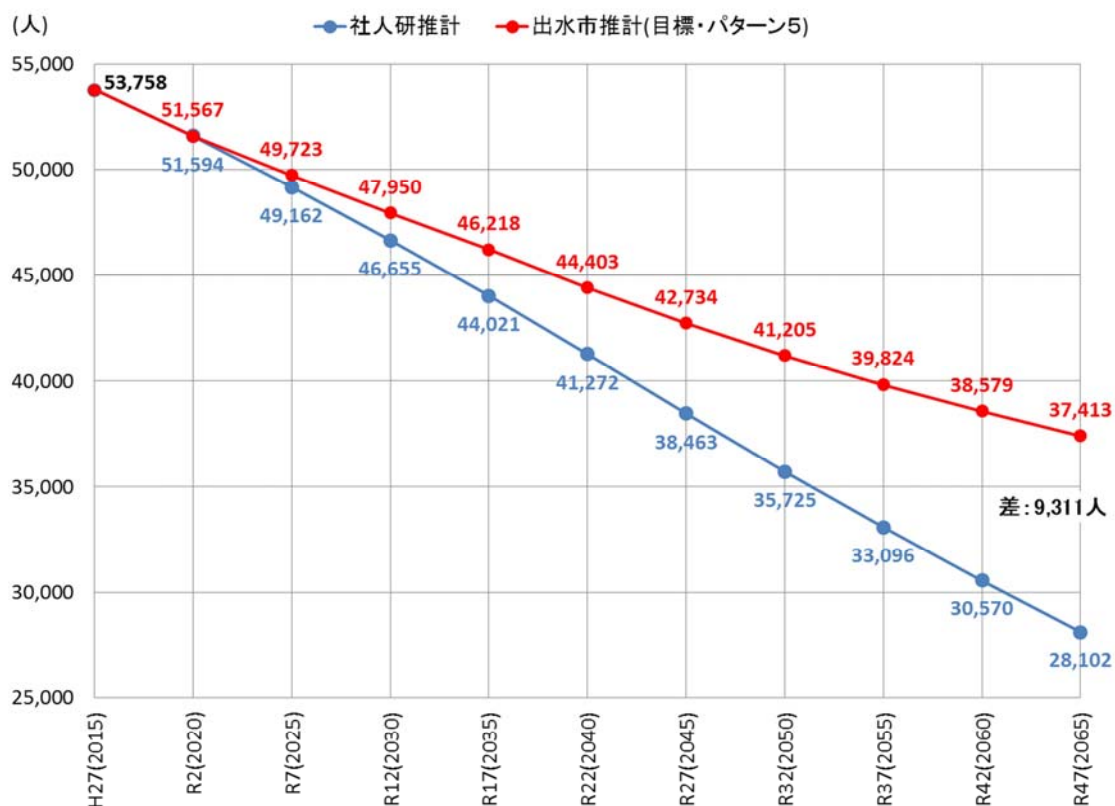
また、労働市場の人手不足改善のために、スマート農業の推進など先端技術導入による生産性向上に努めるとともに、域内経済循環を高めることにより住民の所得向上に向けた取組などを総合的に展開していく必要があります。

一方で、人口減少を見据えて、コミュニティを維持するための取組や、家族・地域の絆を強化する取組も必要です。

これまでの定住・関係人口の減少から産業の活力低下のサイクルを、移住・定住・関係人口の増加から産業の活力回復へとつながる好循環のサイクルに転換を図っていくことが重要であり、これを展望した施策を講ずることにより、持続可能なまちづくりを目指していくこととします。

(2) 人口の将来展望

図表 5-5 人口シミュレーションの結果



これまでの推計や分析、調査などを考慮し、本市が目指すべき将来人口規模を展望します。

高校生の地元就職促進、子育て世帯の移住促進、大学卒業後のUターン促進、女性（22-24歳）の転入促進により、人口減少に歯止めをかけます。

- i 短期的目標：5年後である令和7（2025）年 …49,723人
- ii 中期的目標：20年後である令和22（2040）年 …44,403人
- iii 長期的目標：45年後である令和47（2065）年 …37,413人

## 参 考 資 料

小学校区別将来推計

参考資料：小学校区別将来推計

(1) 平成 27(2015)年の人口を基準(100%)とした総人口の推移

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)
市全体	100.0%	96.5%	92.3%	87.9%	83.2%	78.2%	73.1%	68.0%	63.2%	58.5%	53.9%
上場	100.0%	94.3%	89.3%	85.0%	79.9%	73.9%	66.9%	60.5%	55.0%	50.1%	46.0%
大川内	100.0%	89.6%	79.2%	69.5%	60.8%	51.8%	43.5%	36.6%	30.8%	26.3%	22.7%
東出水	100.0%	97.3%	93.8%	89.9%	85.4%	80.7%	75.8%	71.2%	66.7%	62.1%	57.2%
出水	100.0%	97.3%	93.7%	89.7%	84.8%	80.1%	75.1%	70.2%	65.6%	60.9%	56.1%
西出水	100.0%	97.9%	94.8%	91.5%	87.4%	83.1%	78.6%	74.0%	69.3%	64.5%	59.6%
米ノ津東	100.0%	96.4%	91.9%	87.3%	82.6%	77.2%	71.7%	66.5%	61.3%	56.4%	51.6%
米ノ津	100.0%	95.5%	90.7%	85.7%	80.5%	75.1%	69.7%	64.4%	59.4%	54.8%	50.5%
切通	100.0%	92.4%	85.4%	78.6%	72.2%	65.2%	58.4%	52.9%	48.2%	43.6%	39.7%
鶴荘	100.0%	94.2%	88.6%	82.9%	78.1%	71.9%	65.9%	60.2%	54.9%	50.2%	45.9%
蕨島	100.0%	92.5%	83.0%	73.7%	68.3%	62.2%	56.5%	51.6%	46.2%	41.1%	37.2%
高尾野	100.0%	96.8%	92.6%	88.2%	83.7%	78.8%	73.7%	68.7%	63.9%	59.2%	54.7%
下水流	100.0%	98.3%	95.0%	91.7%	88.0%	84.4%	80.3%	75.9%	71.3%	66.4%	61.4%
江内	100.0%	92.2%	85.0%	78.2%	71.8%	64.9%	58.2%	51.9%	46.2%	41.2%	37.1%
野田	100.0%	94.5%	89.4%	84.0%	78.8%	73.6%	68.2%	62.8%	58.0%	53.7%	49.7%

(2) 年齢 3 区分別人口構成割合の推移

【0-14歳】

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)
市全体	14.1%	13.8%	13.6%	13.1%	12.6%	12.3%	11.9%	11.6%	11.4%	11.4%	11.4%
上場	11.9%	8.7%	8.9%	10.6%	10.7%	11.0%	11.4%	11.3%	11.0%	11.0%	11.1%
大川内	2.7%	3.6%	4.9%	6.7%	6.9%	7.2%	7.3%	7.2%	7.4%	8.4%	9.4%
東出水	14.1%	14.5%	14.7%	13.9%	13.3%	12.6%	11.8%	11.4%	11.3%	11.5%	11.6%
出水	14.1%	14.4%	14.5%	13.6%	13.1%	12.6%	12.0%	11.7%	11.5%	11.6%	11.7%
西出水	15.9%	15.1%	14.9%	13.9%	13.3%	12.7%	12.1%	11.7%	11.5%	11.4%	11.4%
米ノ津東	13.5%	12.9%	12.6%	12.5%	11.9%	11.7%	11.5%	11.3%	11.1%	11.1%	11.2%
米ノ津	12.8%	12.7%	12.8%	12.7%	12.3%	12.1%	11.9%	11.6%	11.4%	11.4%	11.4%
切通	10.0%	9.3%	9.0%	10.3%	10.5%	10.5%	10.8%	11.0%	11.1%	11.0%	11.1%
鶴荘	9.6%	10.7%	11.1%	12.7%	12.1%	12.0%	11.4%	10.6%	10.3%	10.5%	11.1%
蕨島	10.3%	9.5%	7.6%	10.6%	10.6%	11.2%	11.7%	11.4%	10.8%	10.6%	10.7%
高尾野	15.2%	14.7%	14.1%	13.3%	12.8%	12.5%	12.1%	11.8%	11.5%	11.4%	11.4%
下水流	18.1%	16.9%	15.7%	14.3%	13.6%	13.1%	12.4%	12.1%	11.9%	11.7%	11.6%
江内	8.1%	7.7%	8.1%	9.4%	9.2%	9.4%	9.7%	9.6%	9.6%	9.7%	10.1%
野田	12.7%	13.0%	12.5%	12.4%	12.4%	12.4%	12.4%	12.2%	11.9%	11.6%	11.7%

※構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、合計が 100%とならない年がある。(以下同様)

## 【15-64歳】

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)
市全体	56.3%	53.4%	51.5%	50.7%	49.9%	48.4%	47.2%	46.1%	45.5%	43.8%	44.4%
上場	59.3%	54.3%	47.8%	45.0%	44.2%	44.9%	42.8%	44.9%	47.2%	46.3%	43.1%
大川内	44.8%	39.3%	34.9%	30.9%	31.0%	30.3%	32.6%	34.8%	32.8%	29.9%	32.7%
東出水	57.5%	54.2%	52.6%	52.9%	52.4%	50.4%	48.8%	45.8%	43.6%	42.1%	43.6%
出水	56.8%	54.2%	51.4%	51.7%	51.0%	49.6%	47.8%	45.6%	44.3%	42.3%	44.0%
西出水	58.4%	56.2%	54.4%	53.9%	52.6%	50.9%	48.8%	47.1%	46.1%	44.2%	44.8%
米ノ津東	56.7%	53.6%	51.6%	49.6%	49.0%	46.9%	45.4%	45.3%	45.2%	43.4%	44.1%
米ノ津	54.9%	51.6%	49.5%	48.4%	47.3%	46.7%	46.3%	45.9%	46.3%	44.4%	44.2%
切通	49.6%	44.6%	44.3%	43.5%	42.4%	43.5%	42.8%	42.5%	43.9%	43.2%	43.0%
鶴荘	53.5%	50.7%	48.2%	45.4%	45.4%	43.8%	45.0%	44.7%	43.1%	41.3%	41.9%
蕨島	45.2%	44.2%	47.3%	43.0%	40.8%	39.8%	40.5%	42.9%	43.7%	44.4%	46.5%
高尾野	56.0%	53.2%	51.3%	50.5%	50.1%	48.5%	47.2%	47.0%	46.5%	45.1%	45.8%
下水流	58.1%	56.8%	55.8%	54.9%	53.4%	50.6%	49.6%	47.6%	46.7%	45.5%	46.8%
江内	52.8%	48.6%	45.5%	42.5%	40.9%	40.1%	40.7%	42.7%	42.7%	41.7%	39.6%
野田	54.0%	50.3%	48.9%	47.0%	46.7%	46.6%	46.9%	46.6%	47.6%	45.7%	44.4%

## 【65歳-】

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)
市全体	29.7%	32.8%	34.9%	36.2%	37.5%	39.3%	40.9%	42.3%	43.1%	44.8%	44.2%
上場	28.8%	37.1%	43.2%	44.4%	45.1%	44.1%	45.8%	43.8%	41.8%	42.7%	45.8%
大川内	52.5%	57.1%	60.2%	62.4%	62.2%	62.5%	60.1%	58.1%	59.8%	61.7%	57.9%
東出水	28.4%	31.3%	32.8%	33.2%	34.3%	37.0%	39.3%	42.7%	45.1%	46.4%	44.9%
出水	29.1%	31.4%	34.0%	34.7%	35.9%	37.8%	40.2%	42.8%	44.2%	46.1%	44.3%
西出水	25.7%	28.6%	30.7%	32.2%	34.2%	36.4%	39.0%	41.2%	42.4%	44.3%	43.8%
米ノ津東	29.8%	33.6%	35.8%	37.9%	39.2%	41.4%	43.1%	43.4%	43.7%	45.5%	44.7%
米ノ津	32.3%	35.7%	37.7%	39.0%	40.4%	41.1%	41.8%	42.5%	42.3%	44.2%	44.4%
切通	40.4%	46.0%	46.7%	46.2%	47.2%	46.0%	46.4%	46.5%	45.1%	45.7%	45.9%
鶴荘	37.0%	38.6%	40.8%	42.0%	42.5%	44.2%	43.7%	44.7%	46.6%	48.2%	47.1%
蕨島	44.5%	46.3%	45.1%	46.3%	48.6%	49.1%	47.8%	45.7%	45.5%	45.0%	42.9%
高尾野	28.7%	32.1%	34.6%	36.2%	37.1%	39.1%	40.7%	41.2%	42.0%	43.5%	42.8%
下水流	23.8%	26.3%	28.5%	30.8%	33.0%	36.4%	38.0%	40.3%	41.4%	42.8%	41.7%
江内	39.0%	43.7%	46.4%	48.2%	49.9%	50.6%	49.6%	47.7%	47.7%	48.6%	50.3%
野田	33.3%	36.8%	38.7%	40.5%	40.8%	41.0%	40.7%	41.2%	40.5%	42.6%	43.9%

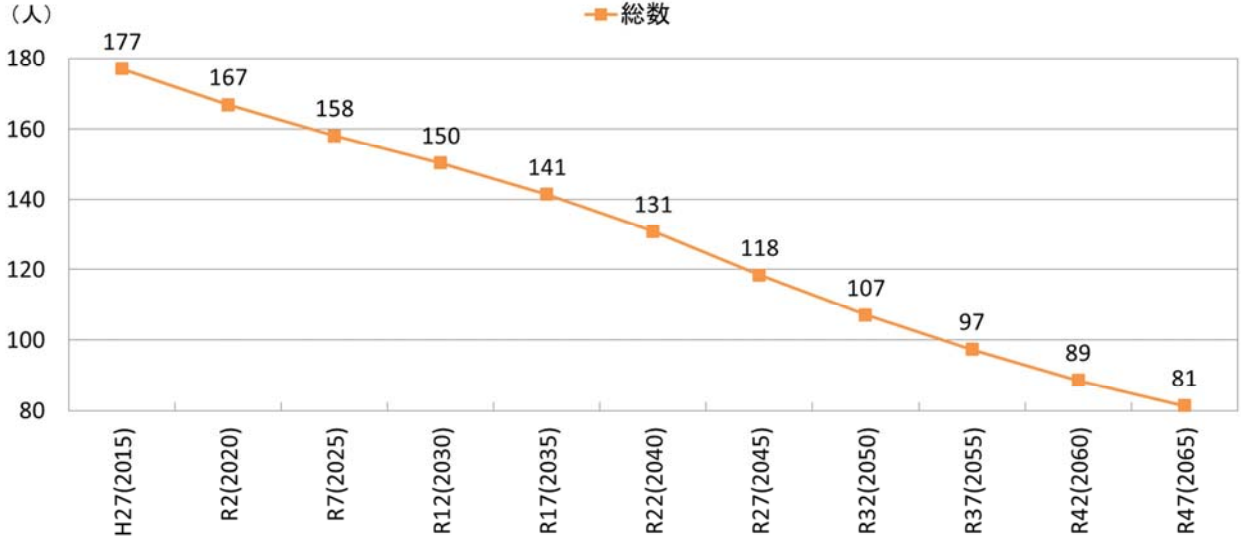
(3) 小学校区別人口推計結果

【上場小学校区】

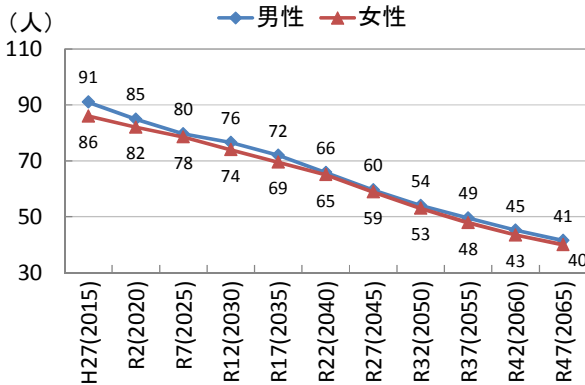
※算出方法：平成 27(2015)年 10 月の住民基本台帳を基に小学校区別人口を算出し、社人研の推計パラメータ（パターン 1）を使用し、人口推計を実施。

人口推移（総数）

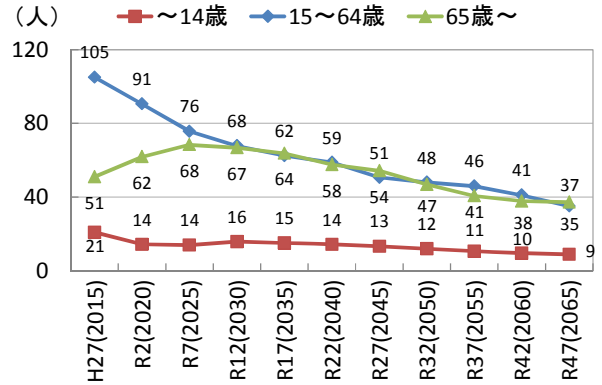
※推計人口は小数点第一位を四捨五入しているため、総数が内訳の合計と一致しないものもある。



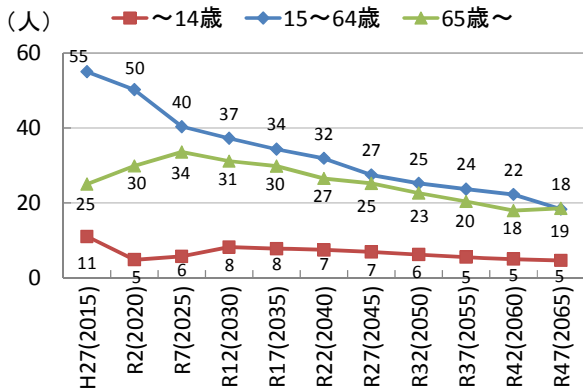
人口推移（男女別）



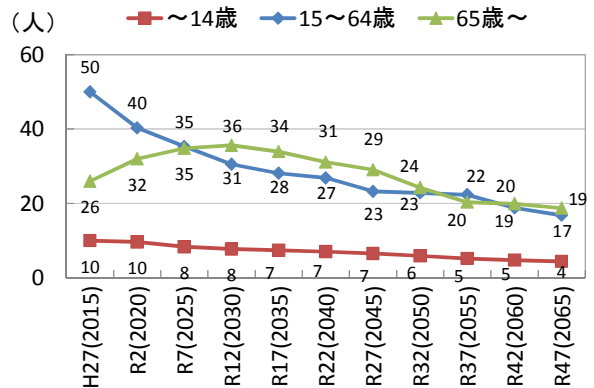
人口推移（年齢 3 区分）



人口推移（男性（年齢 3 区分））



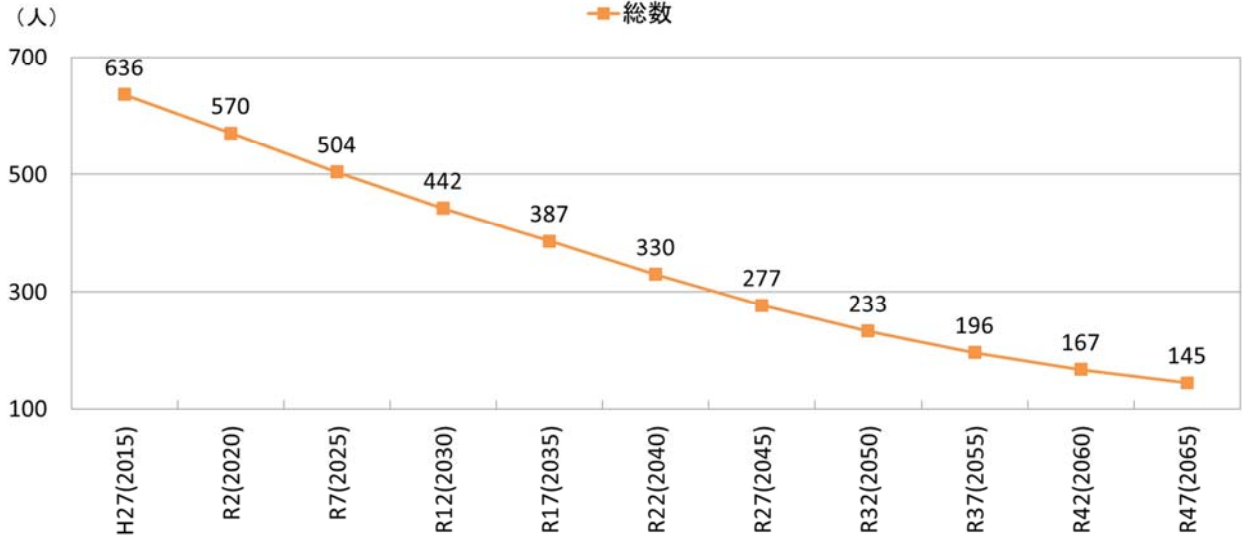
人口推移（女性（年齢 3 区分））



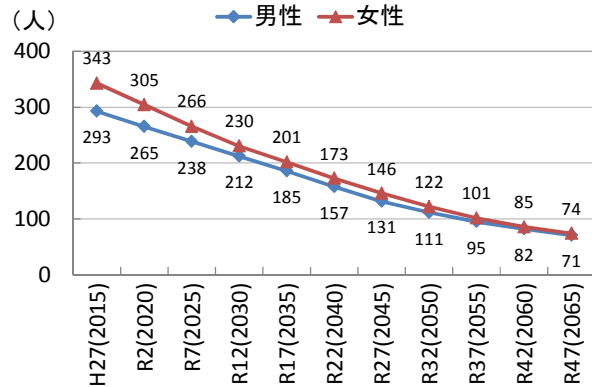


【大川内小学校区】

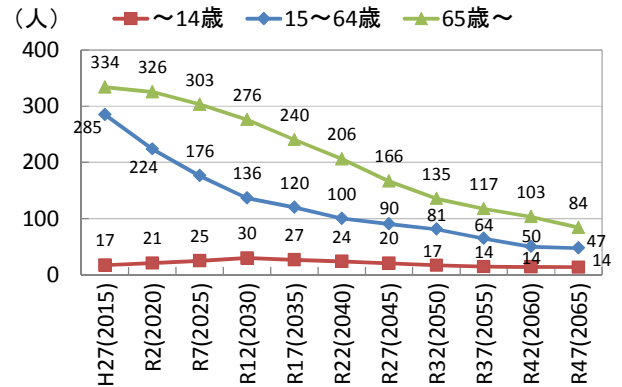
人口推移（総数）



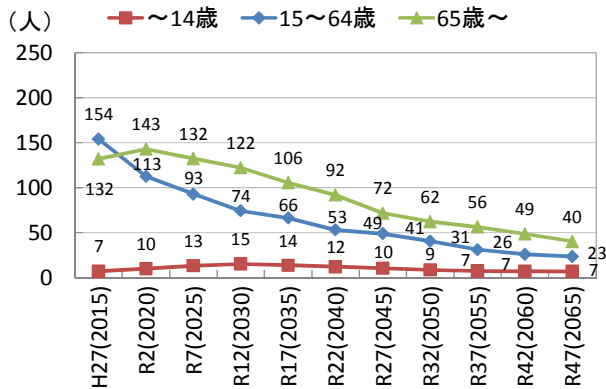
人口推移（男女別）



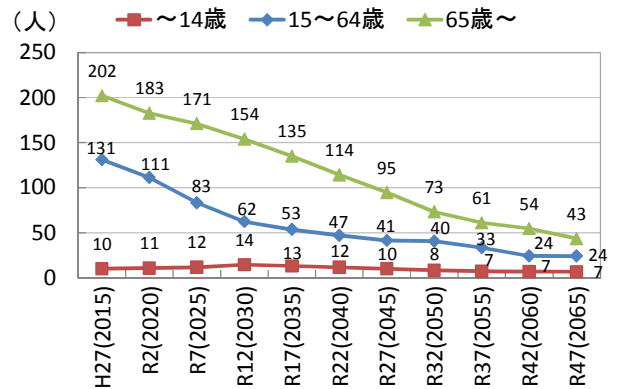
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

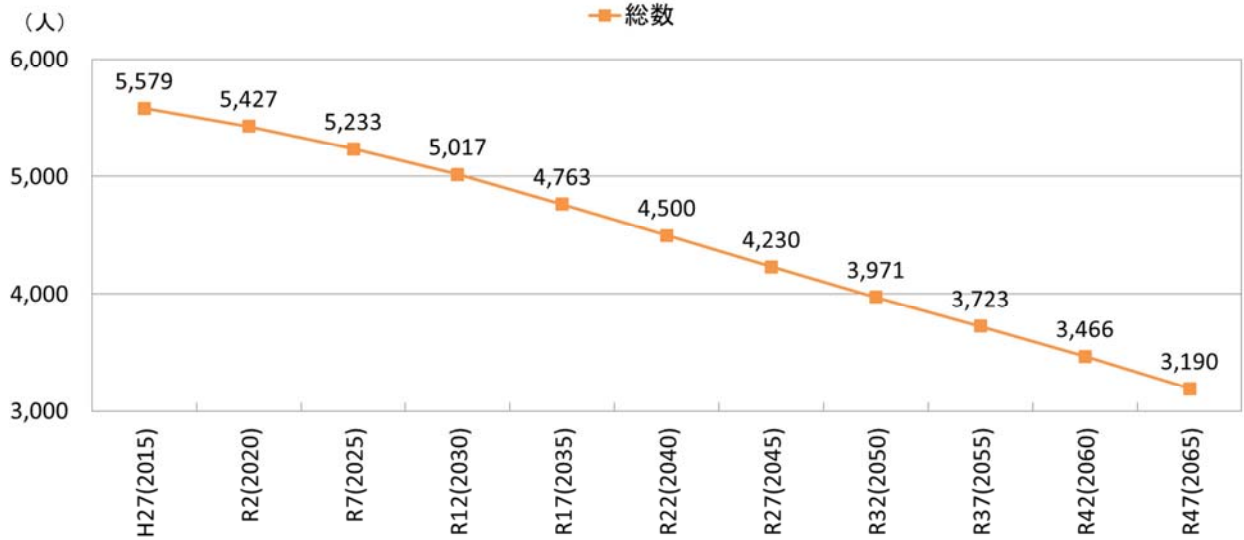


人口推移（女性（年齢3区分））

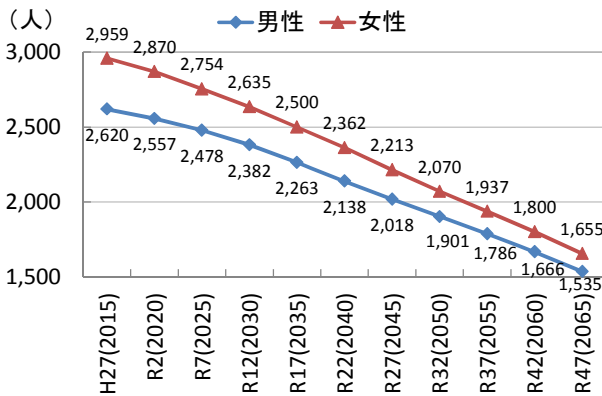


【東出水小学校区】

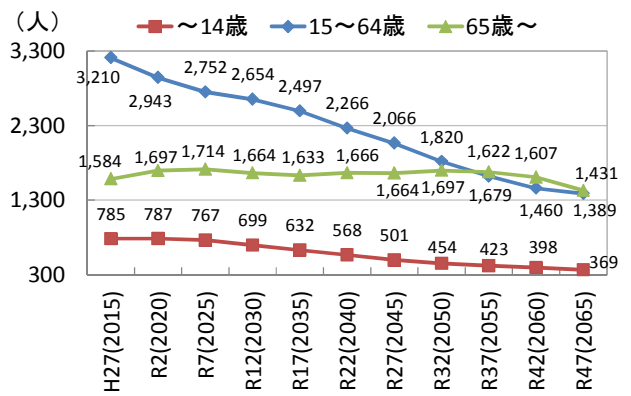
人口推移（総数）



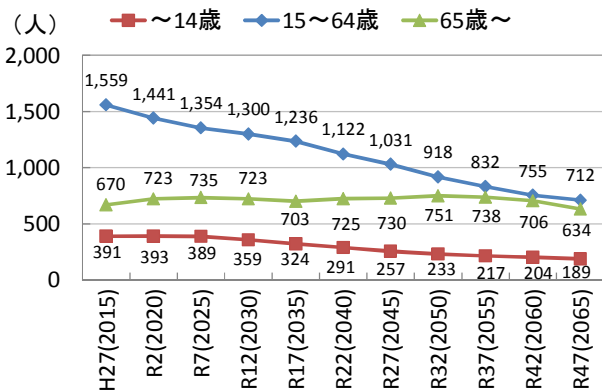
人口推移（男女別）



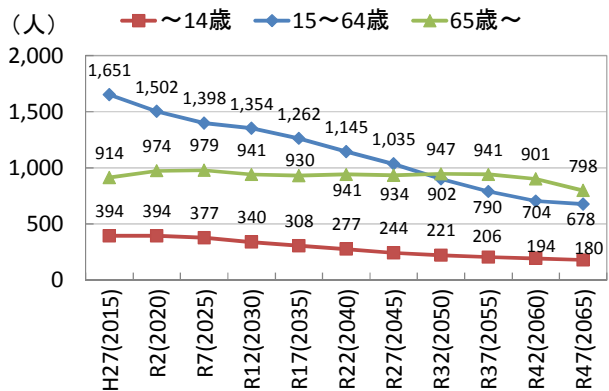
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

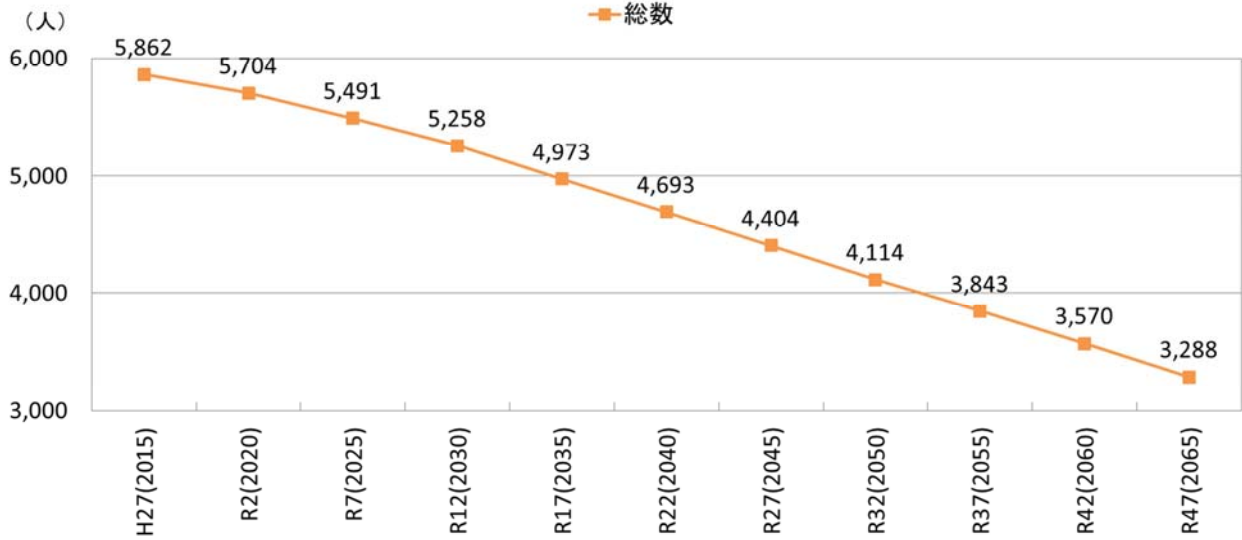


人口推移（女性（年齢3区分））

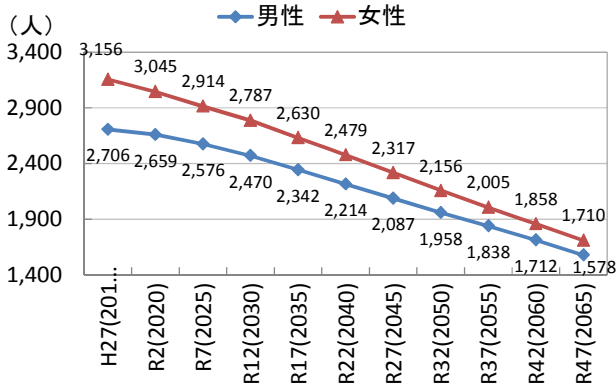


【出水小学校区】

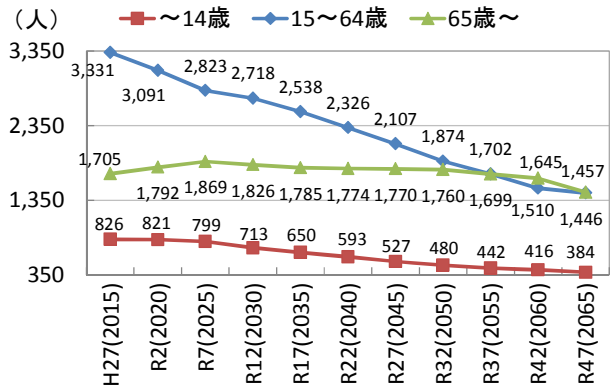
人口推移（総数）



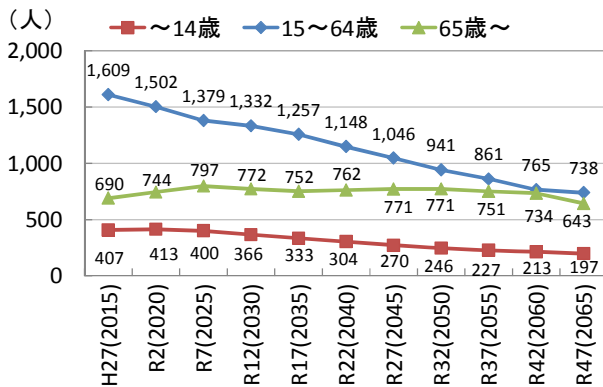
人口推移（男女別）



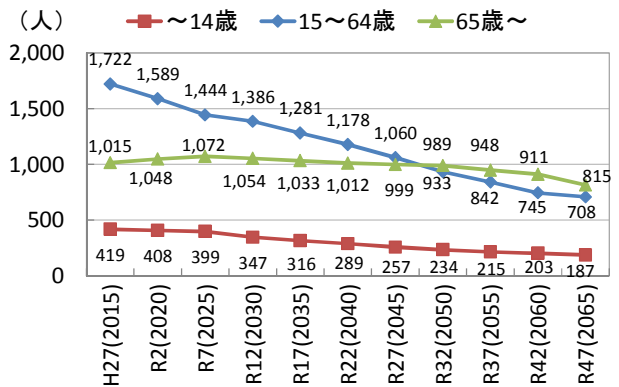
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

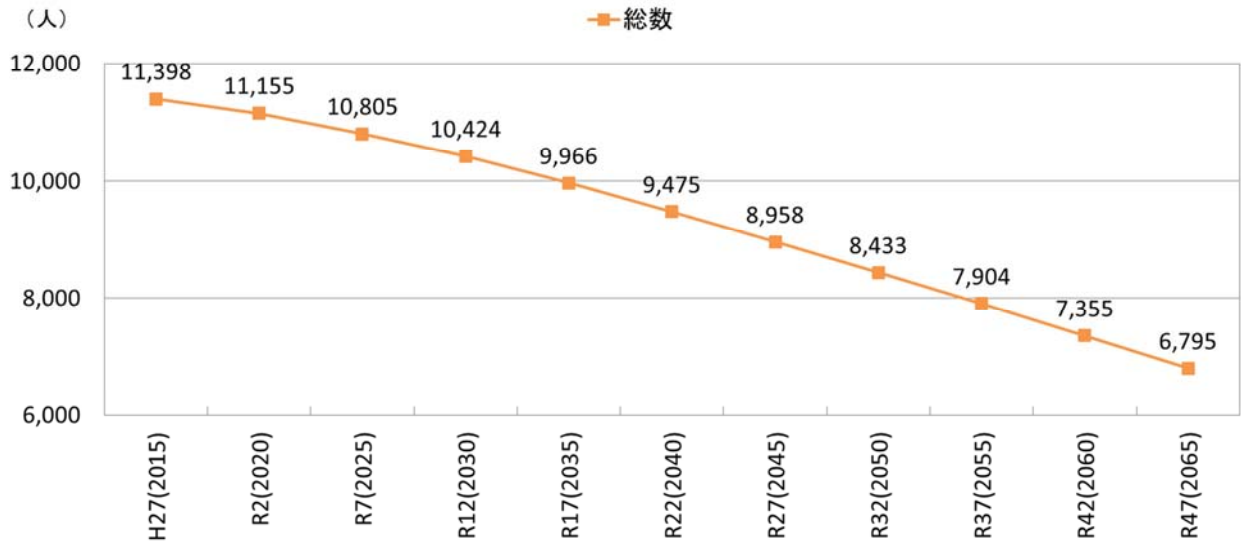


人口推移（女性（年齢3区分））

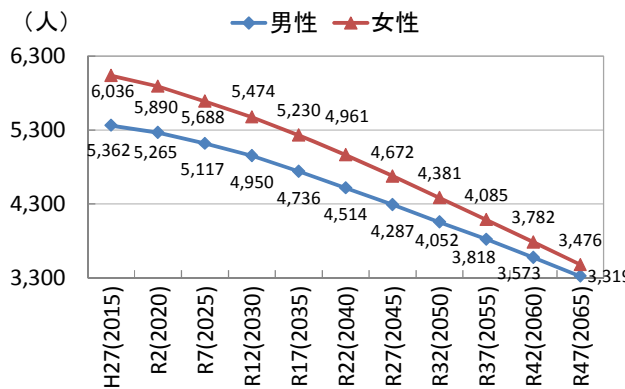


【西出水小学校区】

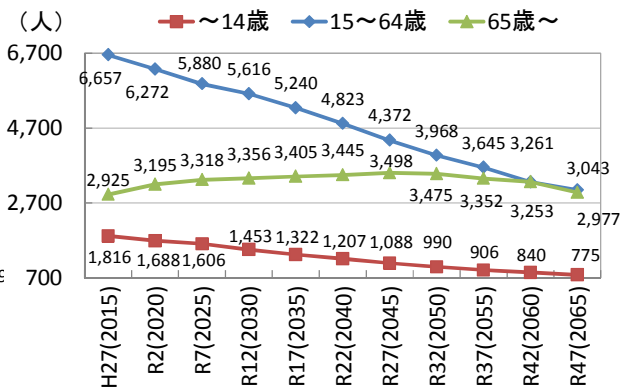
人口推移（総数）



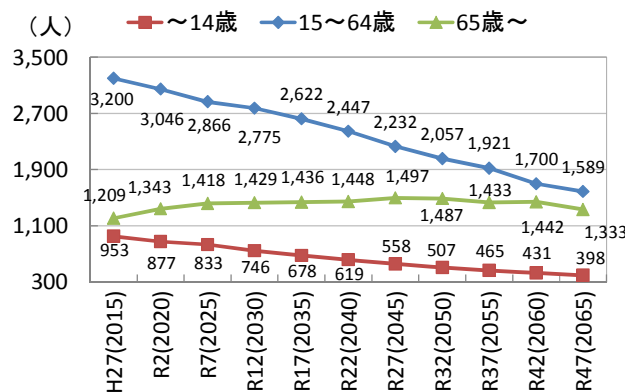
人口推移（男女別）



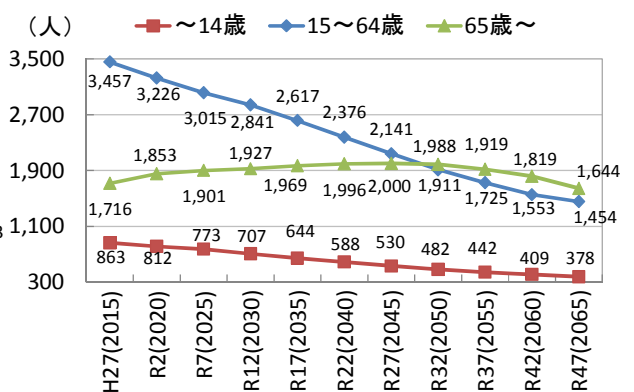
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

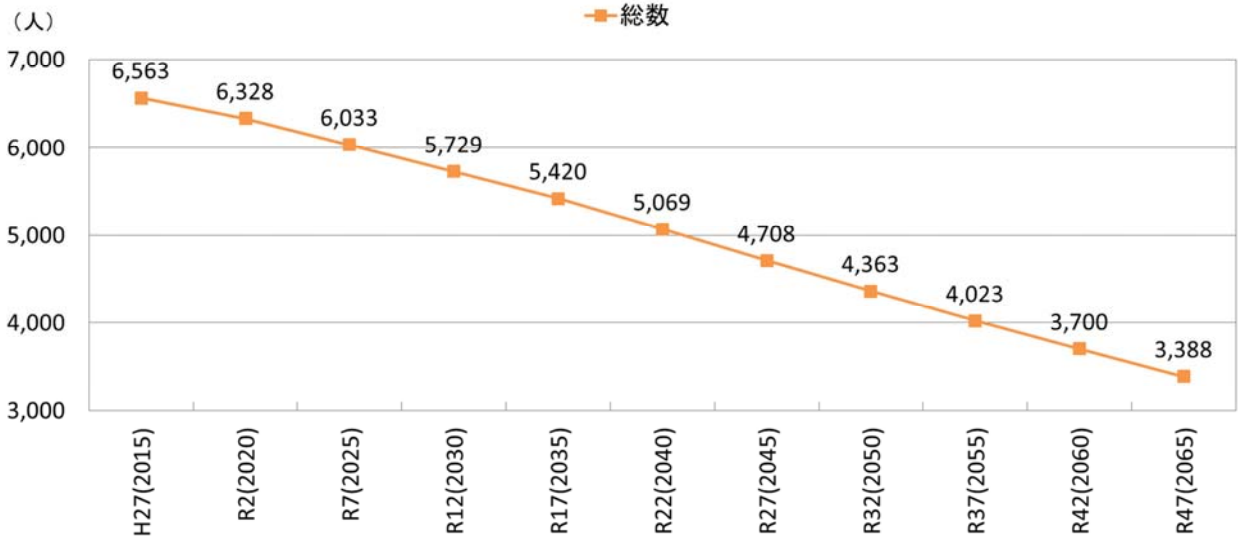


人口推移（女性（年齢3区分））

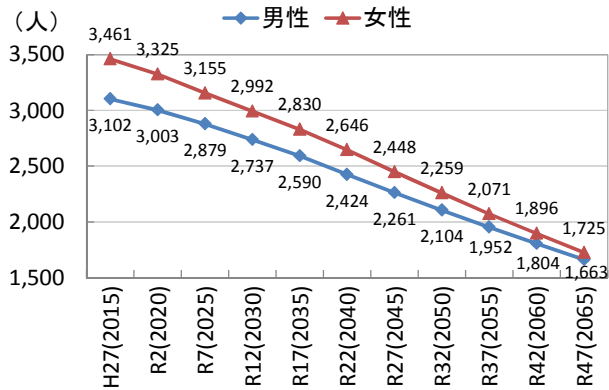


【米ノ津東小学校区（桂島含）】

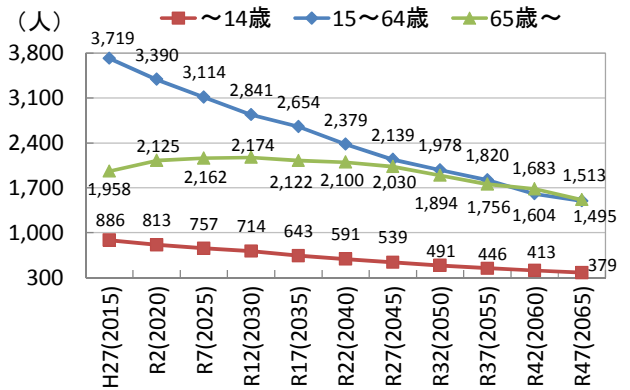
人口推移（総数）



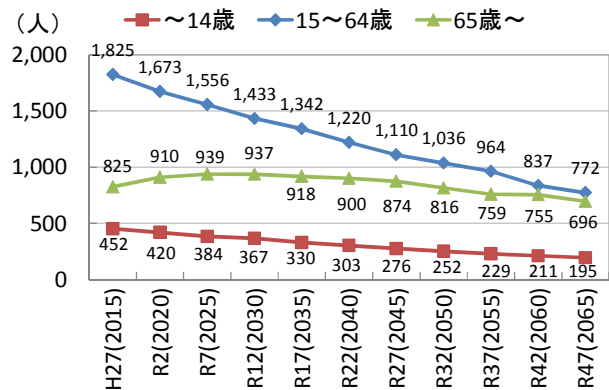
人口推移（男女別）



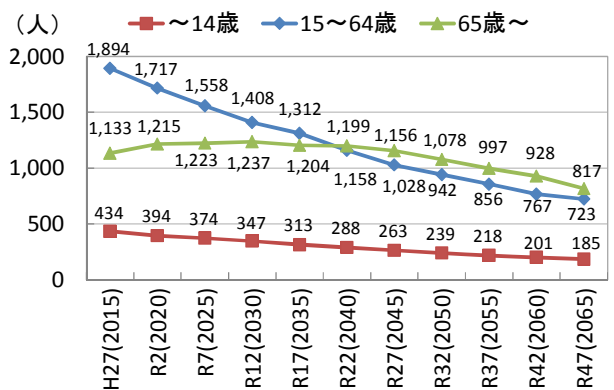
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

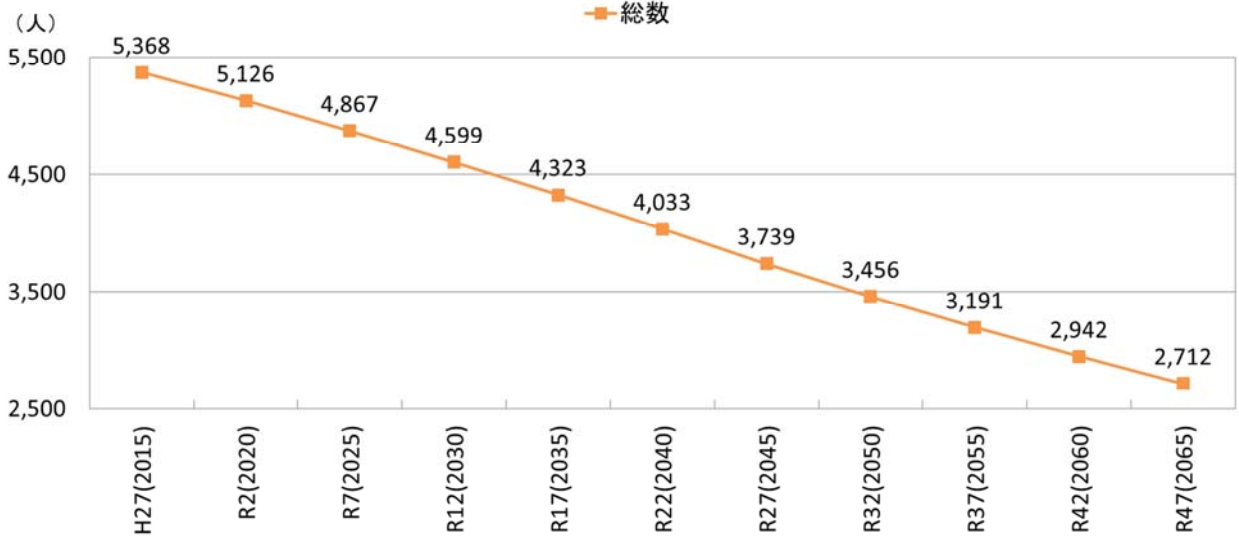


人口推移（女性（年齢3区分））

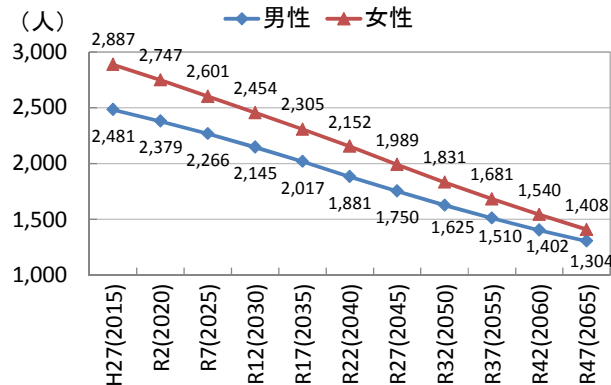


【米ノ津小学校区】

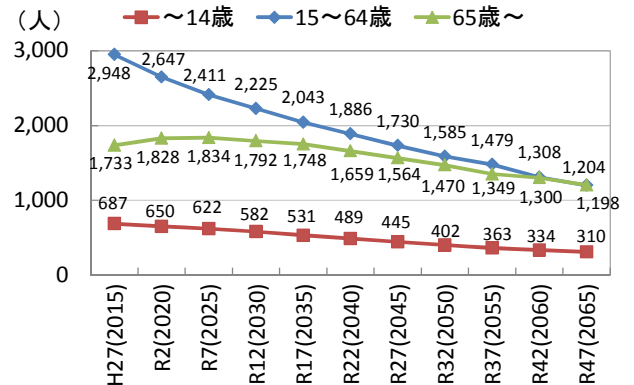
人口推移（総数）



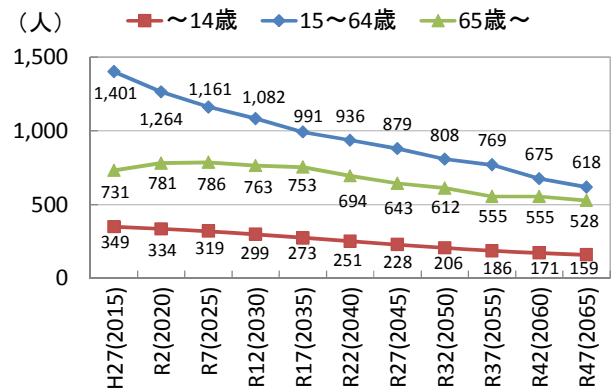
人口推移（男女別）



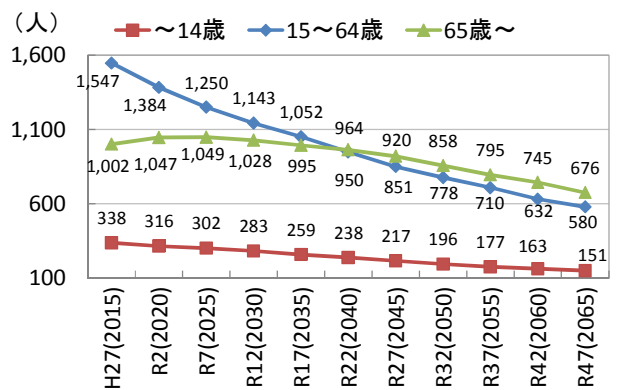
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

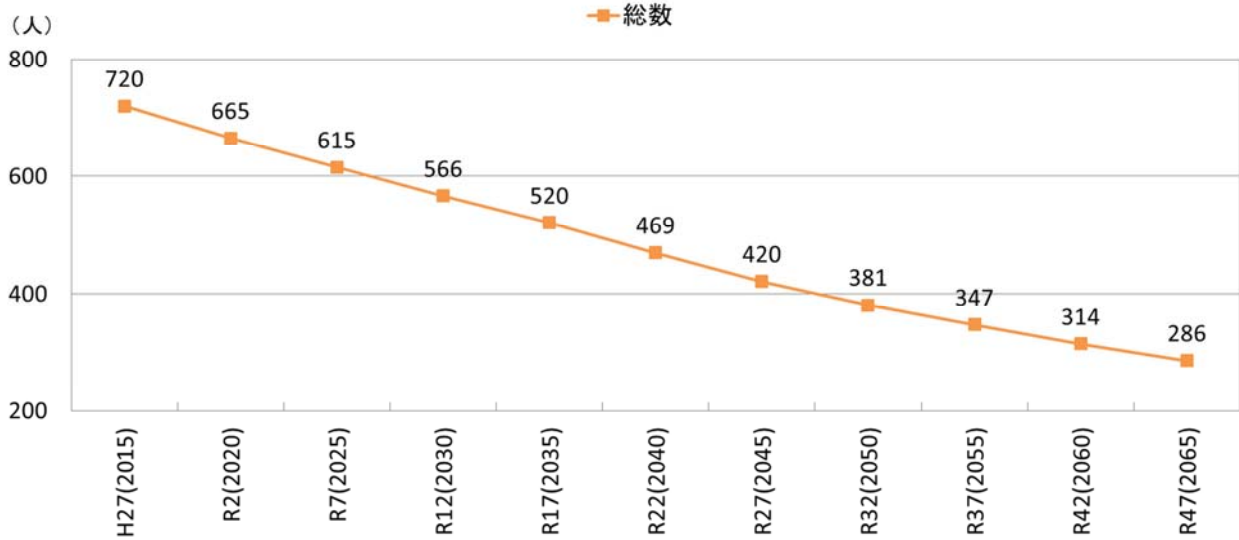


人口推移（女性（年齢3区分））

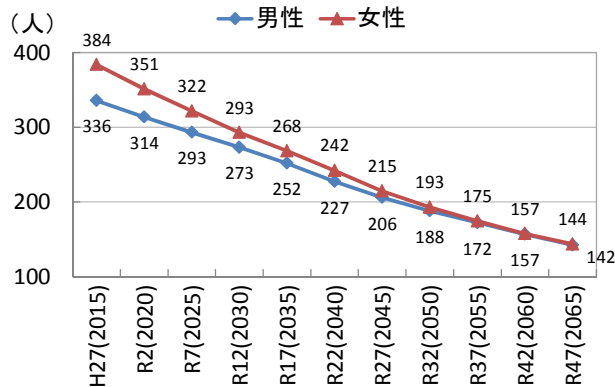


【切通小学校区】

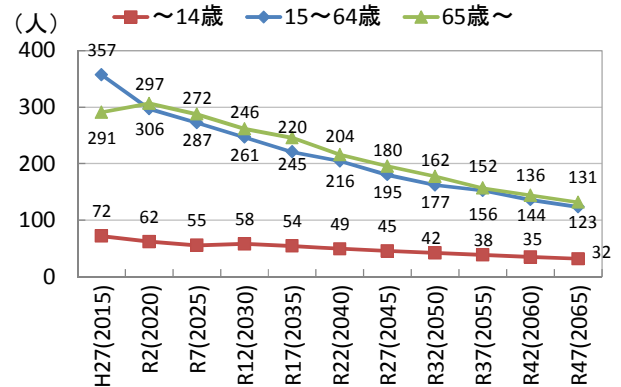
人口推移（総数）



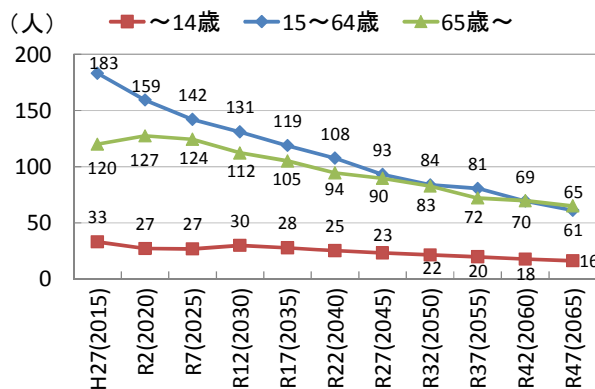
人口推移（男女別）



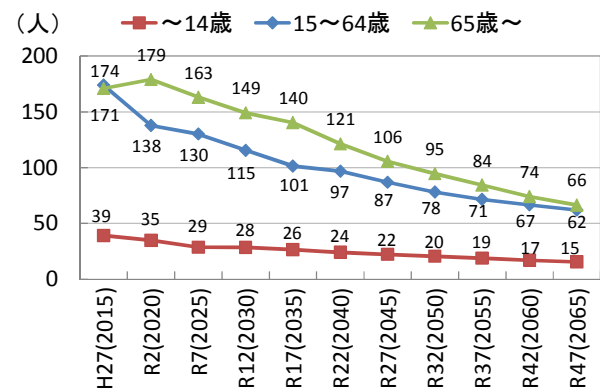
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

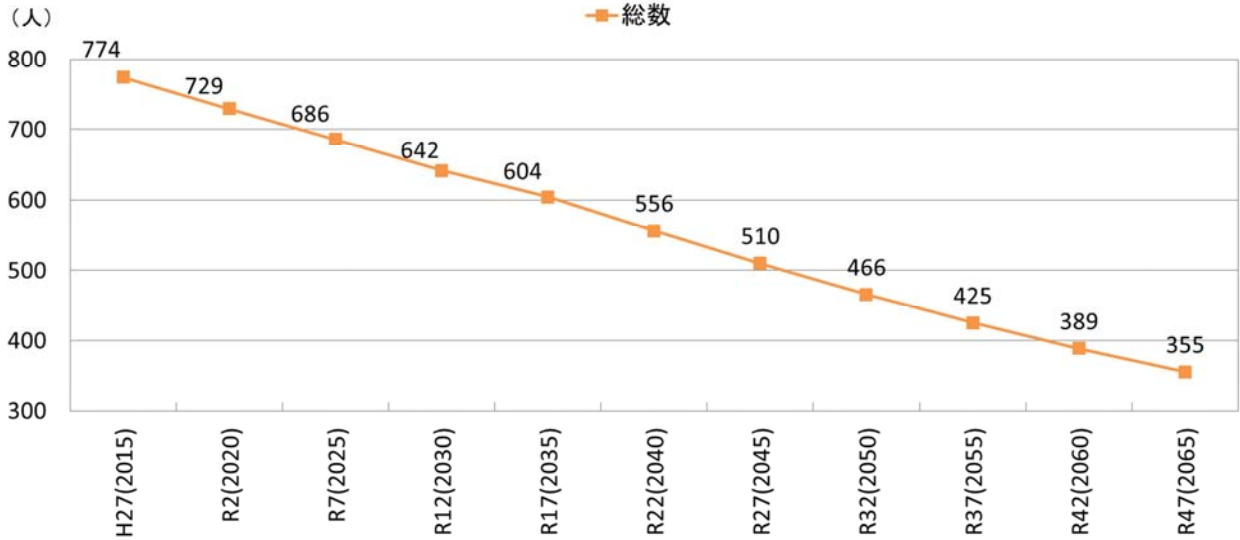


人口推移（女性（年齢3区分））

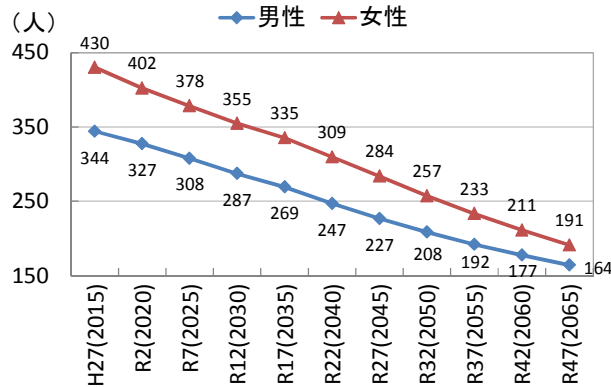


【鶴荘学園校区】

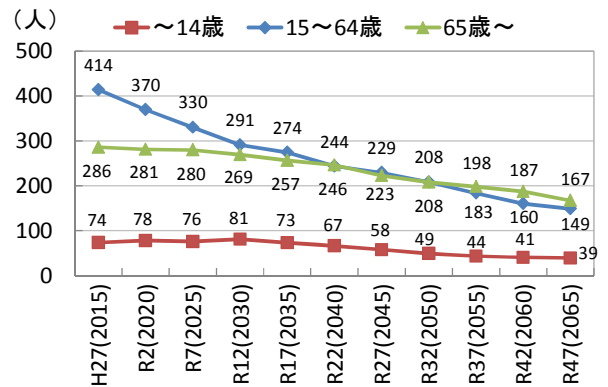
人口推移（総数）



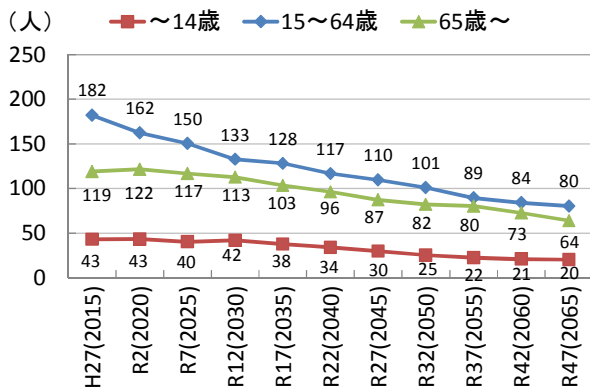
人口推移（男女別）



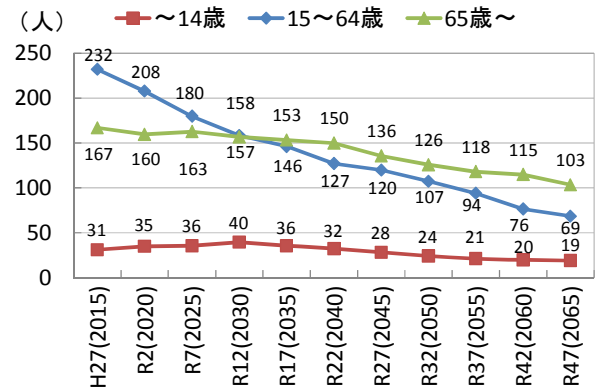
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））



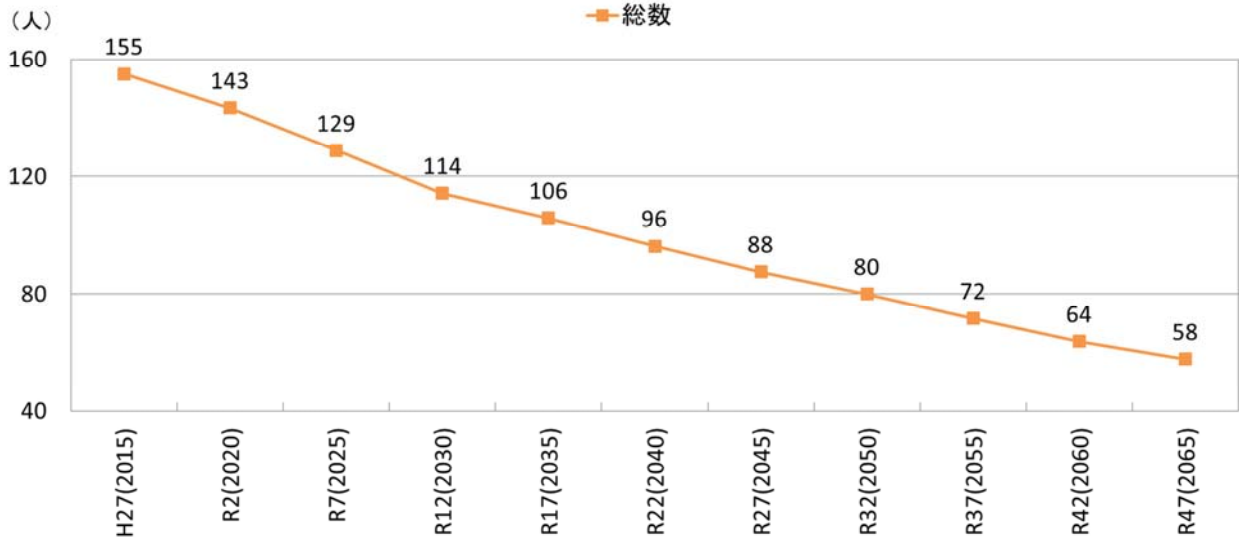
人口推移（女性（年齢3区分））



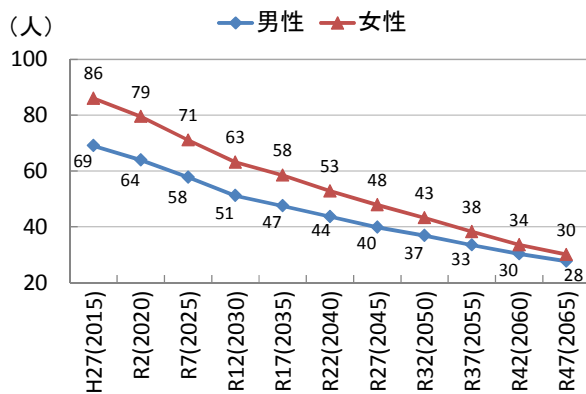


【蕨島小学校区】

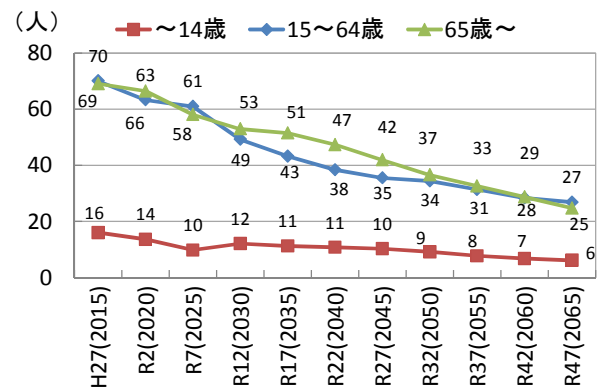
人口推移（総数）



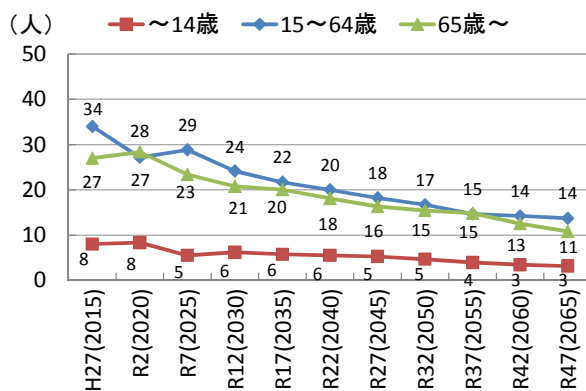
人口推移（男女別）



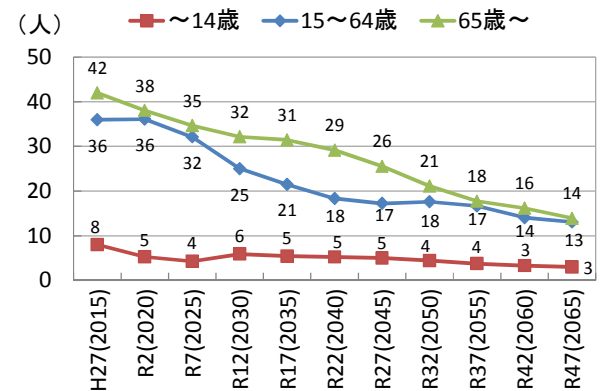
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

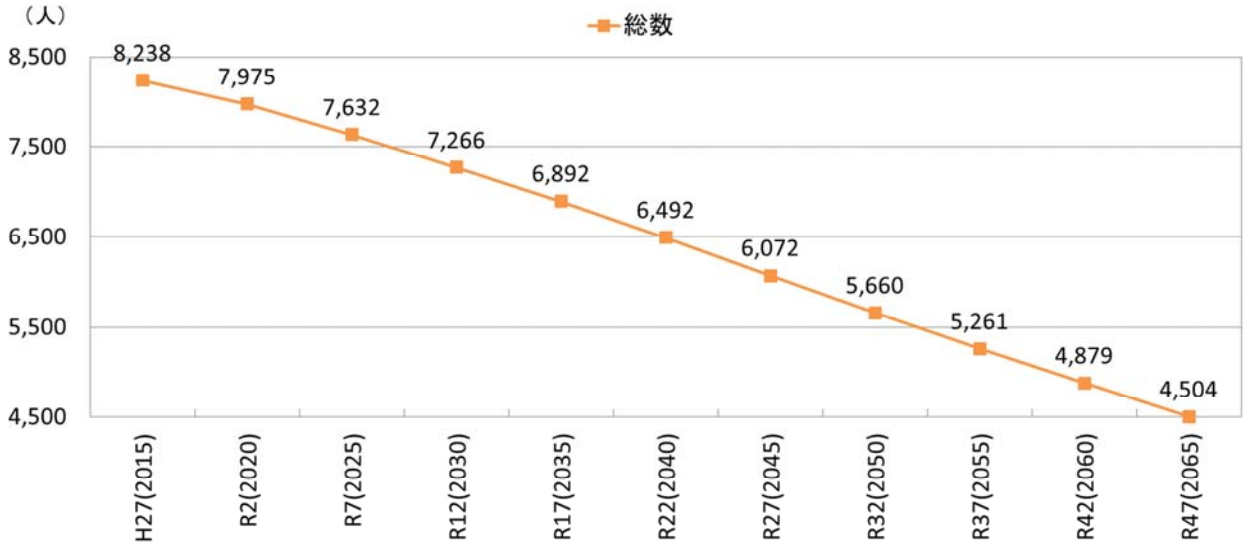


人口推移（女性（年齢3区分））

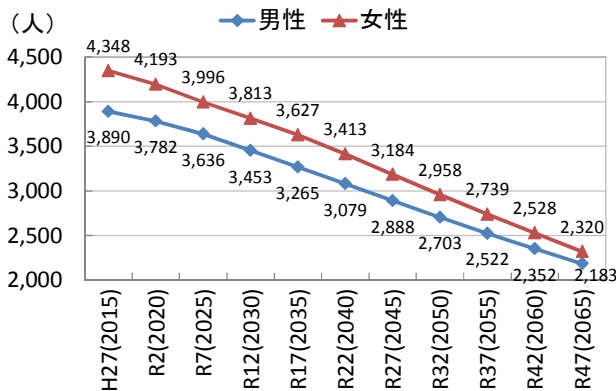


【高尾野小学校区】

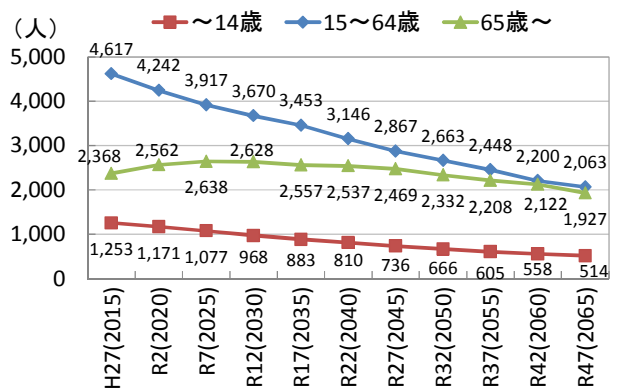
人口推移（総数）



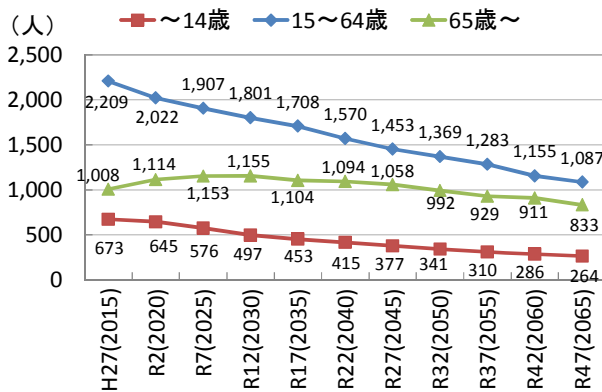
人口推移（男女別）



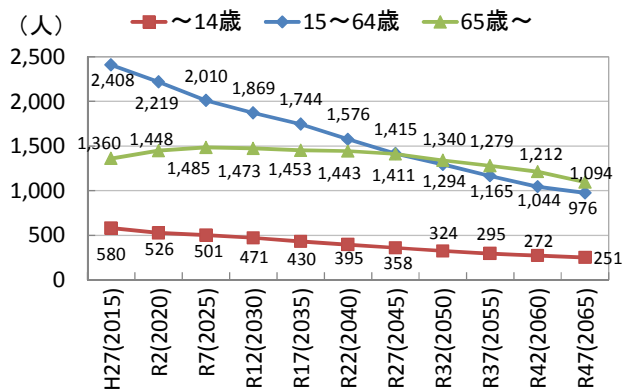
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

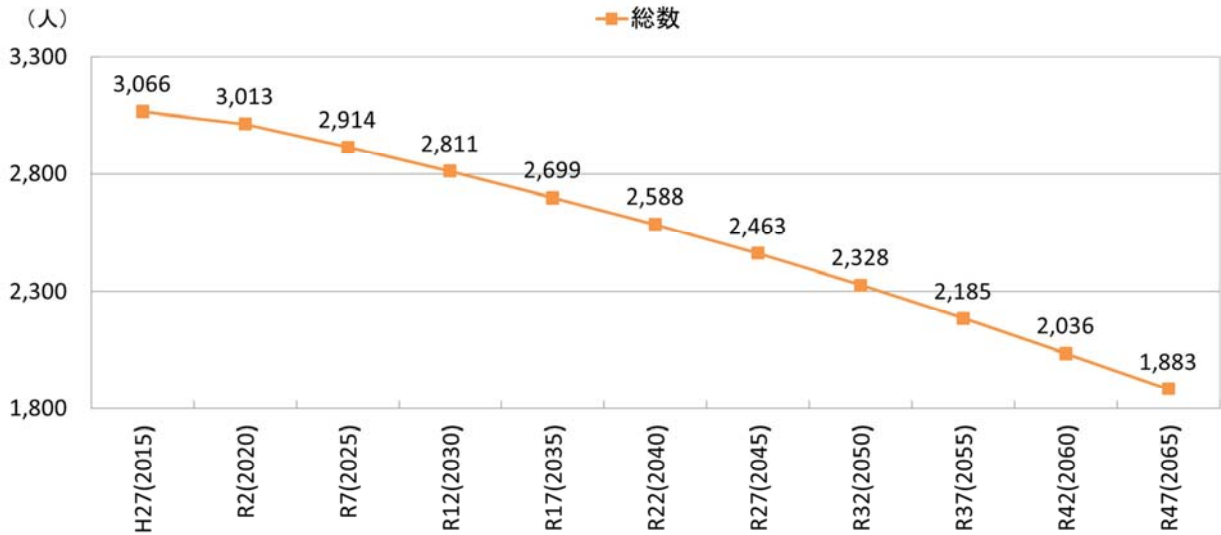


人口推移（女性（年齢3区分））

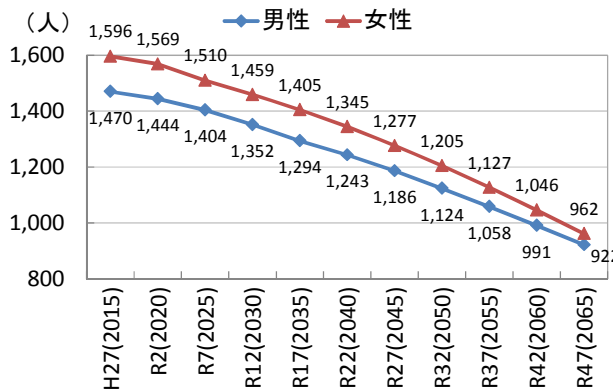


【下水流小学校区】

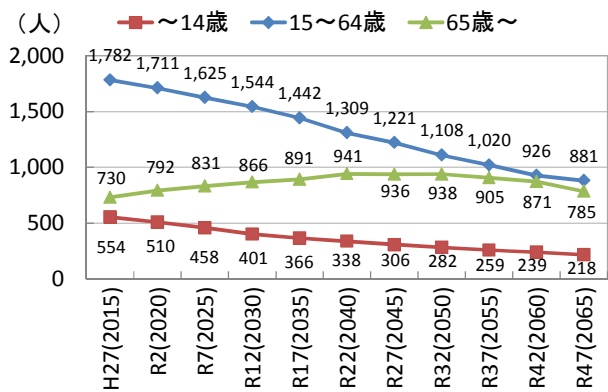
人口推移（総数）



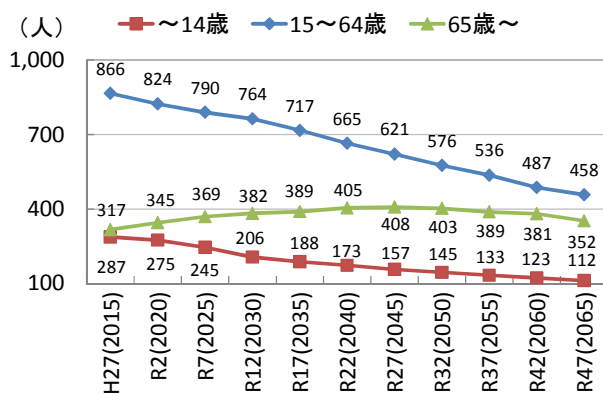
人口推移（男女別）



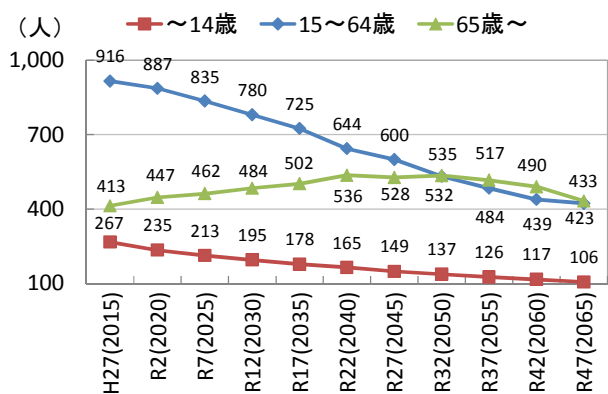
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

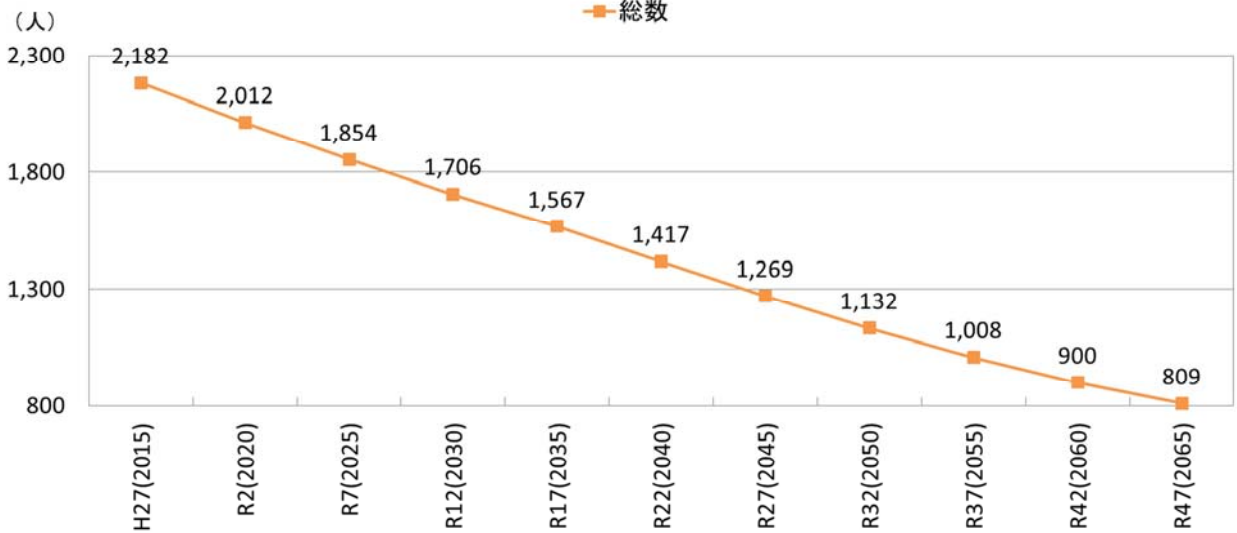


人口推移（女性（年齢3区分））

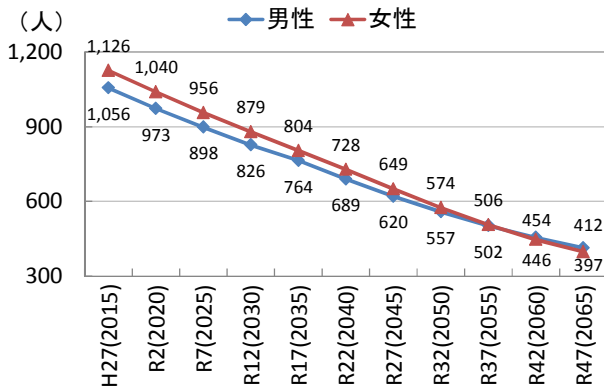


【江内小学校区】

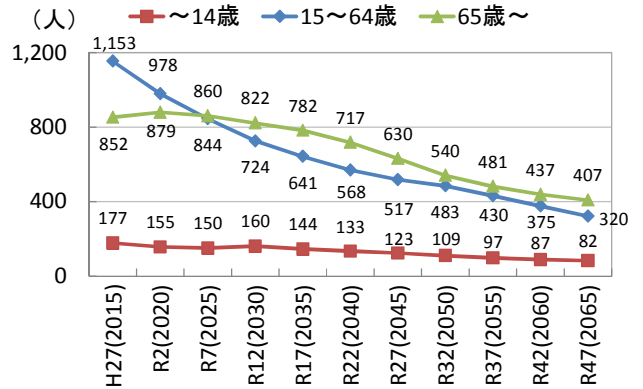
人口推移（総数）



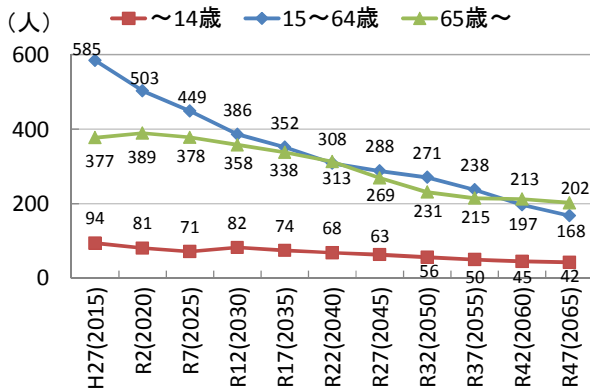
人口推移（男女別）



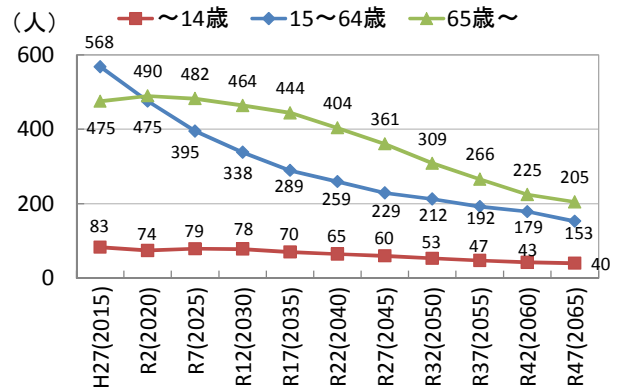
人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））

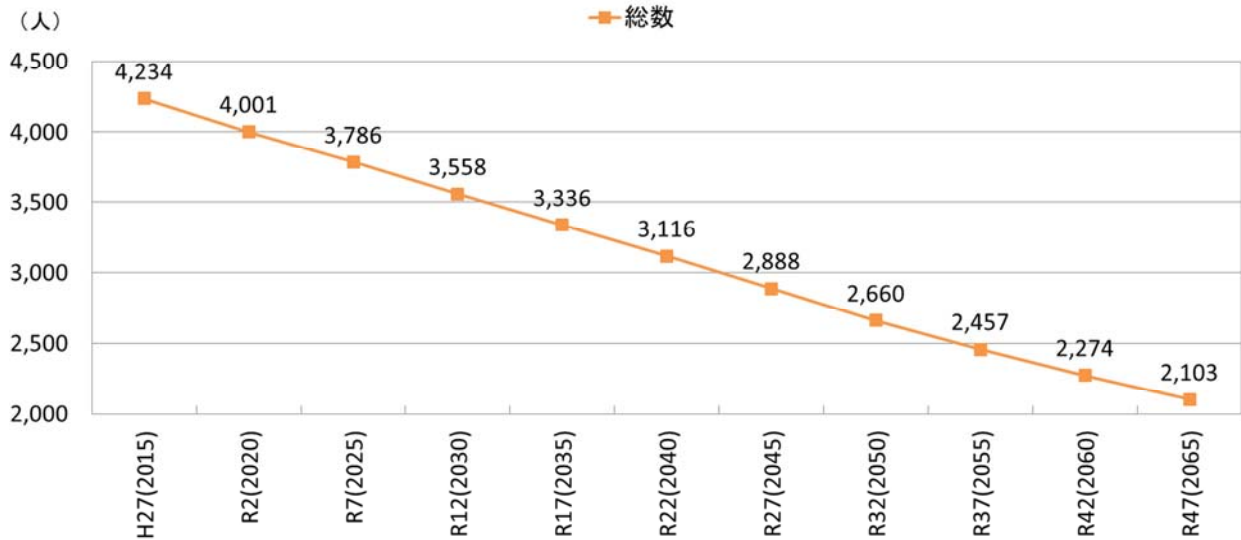


人口推移（女性（年齢3区分））

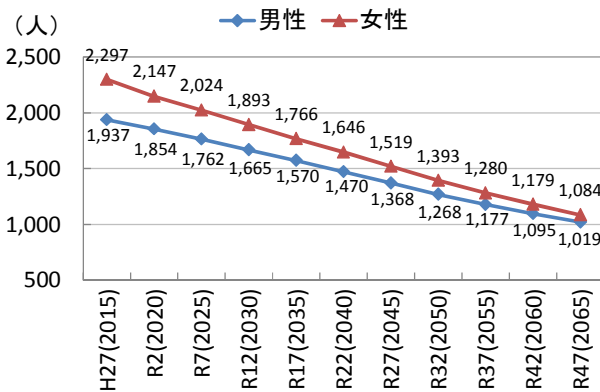


【野田小学校区】

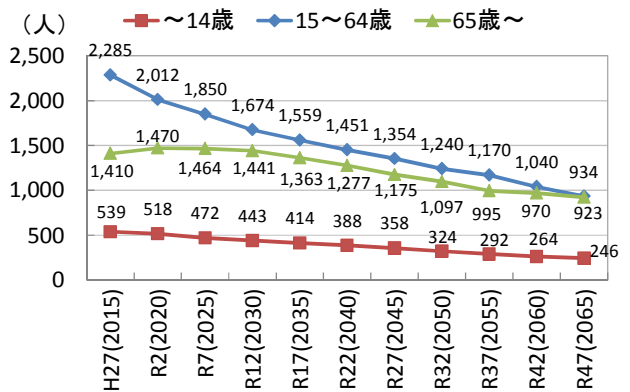
人口推移（総数）



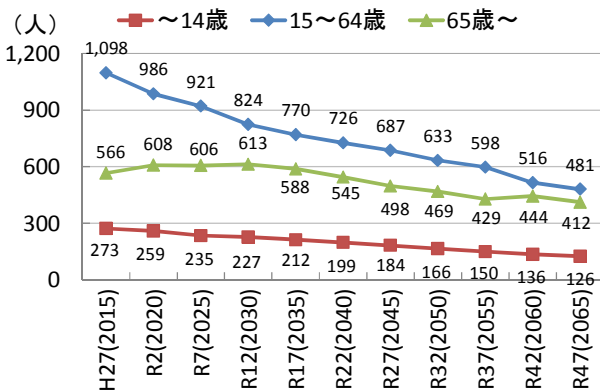
人口推移（男女別）



人口推移（年齢3区分）



人口推移（男性（年齢3区分））



人口推移（女性（年齢3区分））

